

「個を輝かせ、他と協働し、新たな価値を創出するグローバルイノベーター」を育成するために！

平成 30 年度

# ICT 授業アンケート調査結果

[報告書 抜粋]

国際高等専門学校

## 平成30年 ICT授業アンケート調査結果について

学校の教育プログラムの内容や効果は、さまざまな立場の人々にとって重要なものです。学生、保護者、雇用者、社会全般、そして教職員は、教育プロセスの実践や結果に「利害関係」を持った「関係者」です。学生は必ずしも自分で自由に選んだとは限らない活動、すなわち学校が選んで用意した活動に、何年にもわたって多くの日々と時間を費やすことになるわけですから、学生にとって「関係者」は特に大きな存在となります。

学生はその教育の結果が、時間と労力を投資するに値するかどうかすぐにはわからないかもしれません。大人として社会経験を何年も積んで初めて、教育の価値を高く評価できるようになるでしょう。しかし学生は、短期間の学習で得られる成果をよく見抜くため、学生自身の感情や反応は特に学習プロセスとそのプロセスの結果の有効性を見る大切な機会になります。そして学生の学習経験に対する反応は、プログラムの有効性を強調する前向きな経験にも、プログラムを妨害する後ろ向きの経験にもつながることになるのです。

学んでいることが理解できたり、新たな技術を習得し上達していく過程で、私たちは満足感や達成感を感じることができます。このことは、学生・教員両者にとって、学びの動機づけの力強い原動力となっていると言えるでしょう。我々教員が、学生の好奇心やモチベーションを促し持続させる上で最も重要なのは、教員自身の学びに対する欲求を、学生に示すことです。研究活動、効果的な教え方の習得、本校の様々な教育プログラムへの普段からの評価、見直しなどがそれに当たります。

以上のことから、授業アンケートは学校が学生に提供する学習活動や経験の価値と有効性を評価するための非常に重要な手段になります。この授業アンケートは現在の結果を精査する一手段となっており、教育プログラムを改善する試みがなされた際に、結果として生じた変化を追跡することも可能です。

私たちはCDIOスタンダードに基づき、教育プログラムを継続して改善していくために、注意深くこのデータを分析していかなければなりません。アンケート調査結果は、これらの試みに対する結果を観察するうえで特に重要なツールとなります。何より大切なのは、私たちが学生に最善の教育を提供できているのかをこのアンケートによって確認することなのです。

ここにICT教育評価委員会、教員の方々、学生、そしてこの調査にご協力いただいたすべての方々に感謝を記したいと思います。

令和元年6月

国際高等専門学校  
校長 ルイス・バークスデー

The content and effectiveness of a school's educational programs are important to many categories of people. Students, guardians, employers, society at large, as well as faculty and staff all have a stake in the operation and outcomes of the educational process. For students the stake is especially large, since students devote hours of their days over years of their lives to the activities chosen and directed by a school, not necessarily chosen freely by the student.

A student might not know right away whether the educational outcome is worth his or her investment in time and effort. It may take years of experience as an adult in society before the worth of an education can be appreciated. Even so, learners have good insight into at least the near-term outcomes of their studies, and the feelings and reactions of the students themselves provide an especially valuable window on the effectiveness of the learning process and the outcomes of that process. And student reactions to their learning experience feed back into that experience—positive experiences enhancing the effectiveness of a program, and negative ones hindering it.

It is a natural human desire to want to learn, and there is a sense of satisfaction and mastery when we advance in understanding or in skill. This is the powerful engine that motivates learning, for both students and teachers. The most important way in which we teachers can foster and maintain the curiosity and motivation of our students is for us to exhibit the desire to learn ourselves. This includes researching and acquiring effective teaching methods and constantly monitoring and improving our educational programs.

The course questionnaire data is thus a very important tool for assessing the value and effectiveness of learning activities and experiences that the school offers its students. It provides a way to probe current results, and also enables the tracking of changes as efforts are made to improve the educational program.

We must carefully analyze this data in order to continuously improve our programs under the CDIO Standards. Course questionnaire data is a particularly important tool for monitoring the success of such efforts. Most important of all, we must monitor this data to ensure that we are giving our students the best possible education.

I would like to express my thanks to the ICT Education Assessment Committee, the faculty, the students, and all who helped with this survey.

June, 2019

International College of Technology  
Lewis Barksdale, President

# 【 I 】 1年次 授業調査分析報告書

# <1>全体概略

## 1)調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は、国際高等専門学校から、1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、国際高等専門学校全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 調査終了直後に作成した「速報版」は各科目の担当教員が個別に1年間の授業の評価を振り返るためのものであるが、本報告書は全体の傾向を分析し、全体的な改善の方向性を検討するためのものである。
- 平成30年度から、1年次と2～5年次の調査項目が同一ではなくなったため分析報告書も別立てとなっており、本報告書は1年次だけのものとなる。

## 2)調査の概略

調査の概略は下記の通り。

項目	内容		
分析データ件数 対象者		H30年度のべ回答数	H30年度在校生数
	1年次	349件	12名
	全体合計	349件	12名
対象科目	37科目(春・夏学期に実施された科目も含む)		
実施方法	・各授業の最終日に20分程度の記入時間をとって行った。 ・調査票は学生が回収し、教員ではなく学生が事務局に届けるものとした。		
調査主体	学校法人 金沢工業大学		
集計	有限会社 アイ・ポイント		

### 3)実施スケジュール

調査のラフスケジュールは下記の通り。

作業	ステップ	時期	備考
速報版作成作業	調査実施(1年次)	2月18日～2月23日	各授業の最終日に実施
	データ入力(1年次)	2月20日～2月26日	手入力により処理
	速報版完成(1年次)	3月8日	1年次のデータは2月26日に受け取り
最終報告書作成作業	報告書作成	4月5日	

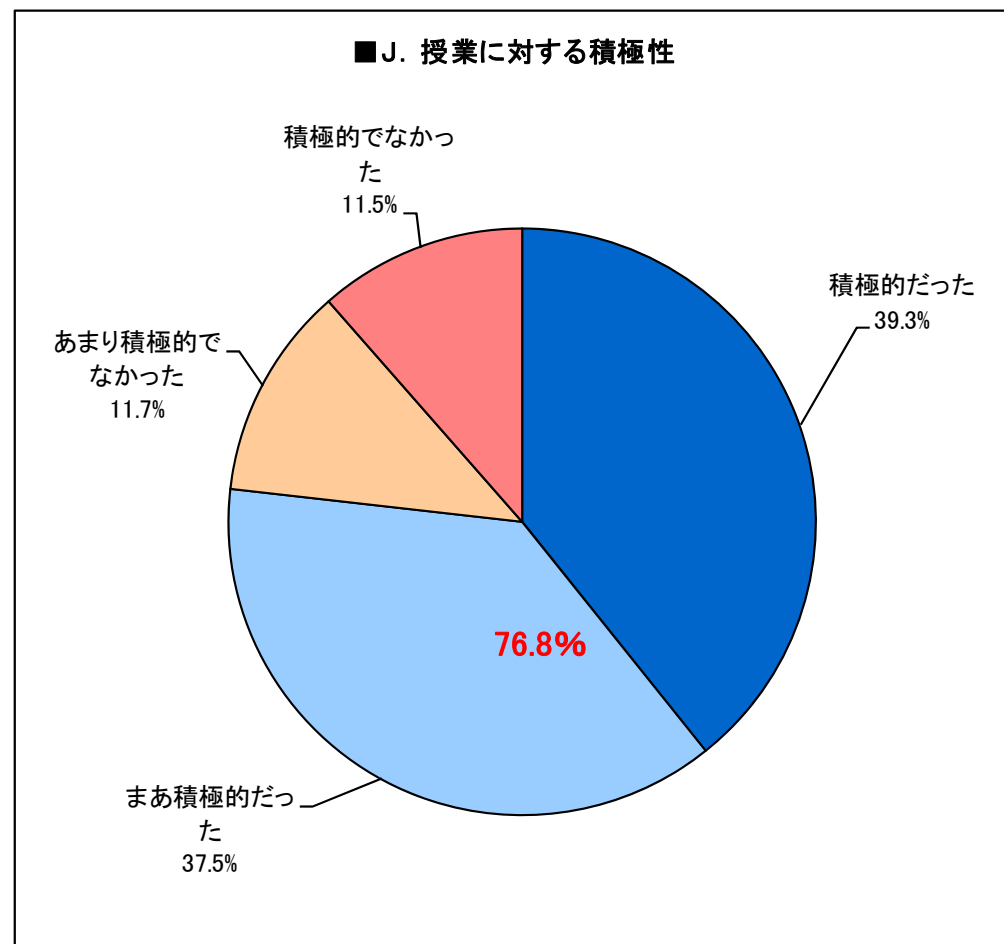
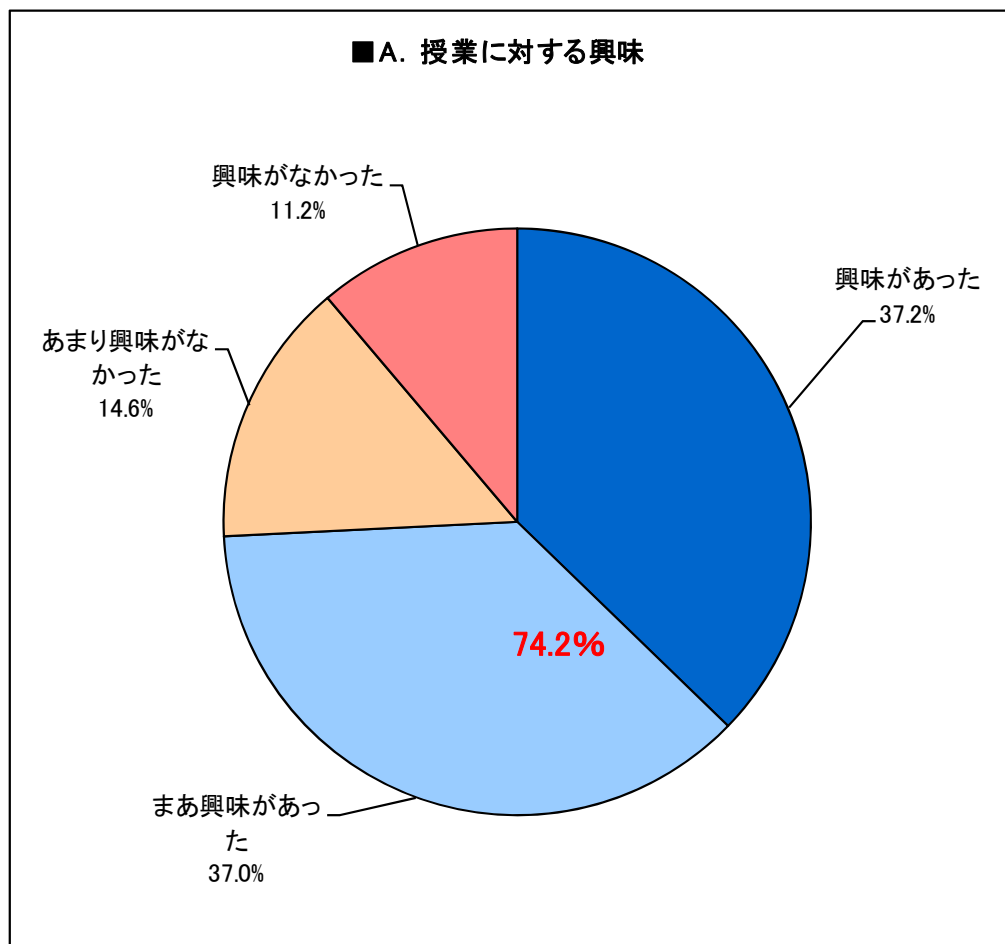
### 4)集計に関して

1. 加重平均:各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を使用している。選択肢が「そう思う～そう思わない」などのような段階的な選択肢を用いた。加重平均はこれらの選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。無回答は回答者数に含めていない。
2. 1年次は学科別集計、部会別集計は行っていない。
3. 1年次は回答者数が少ないといった理由で集計から除外した科目はない。

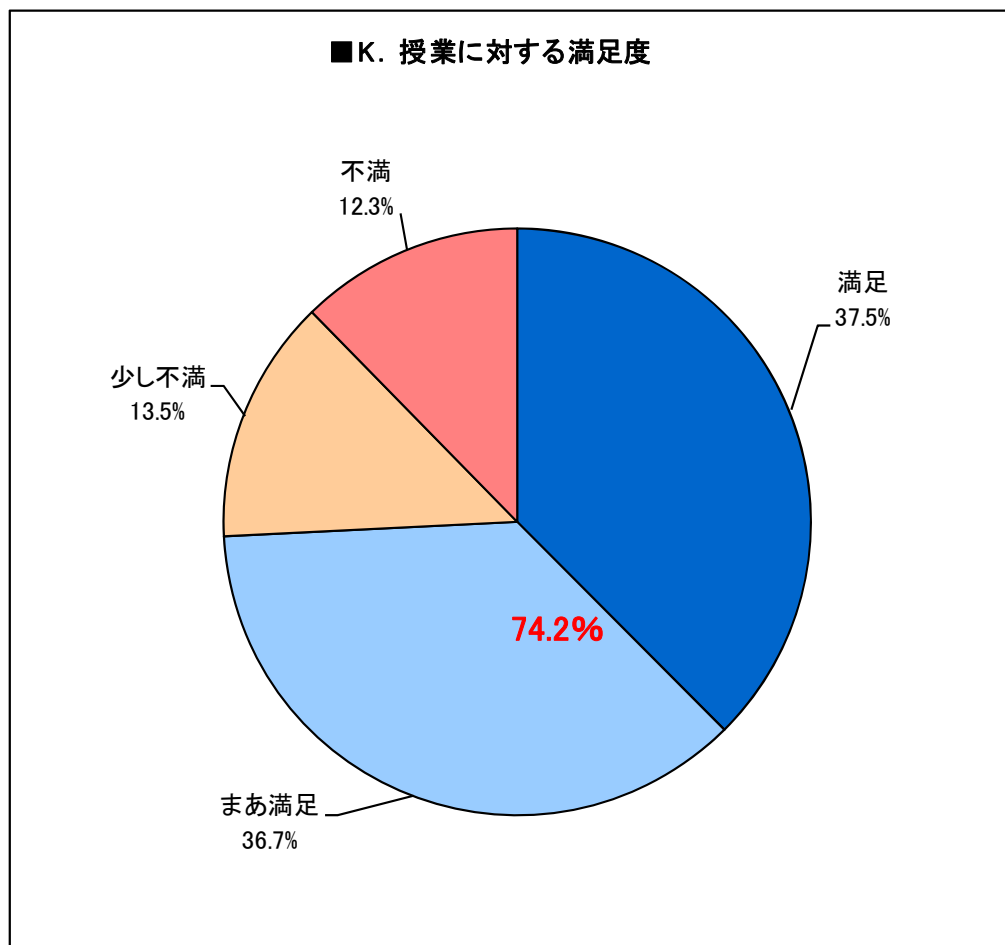
## <2> 基本的な集計

### 1) 主要な3指標(興味、積極性、満足度)

- 主要な3指標は「A.授業に対する興味」「J.授業に対する積極性」「K.授業に対する満足度」の3項目とした。
- 「A.授業に対する興味」を見ると、「興味があった」が37.2%、「まあ興味があった」が37.0%であり、合わせると74.2%が授業に興味を持っていたというものであった。そして、興味を持てなかったという回答は25.8%にとどまっていた。
- 「J.授業に対する積極性」では、「積極的だった」が39.3%、「まあ積極的だった」が37.5%であり、合わせると76.8%が授業に積極的に取り組んだという回答であり、否定的な回答は23.2%にとどまっていた。



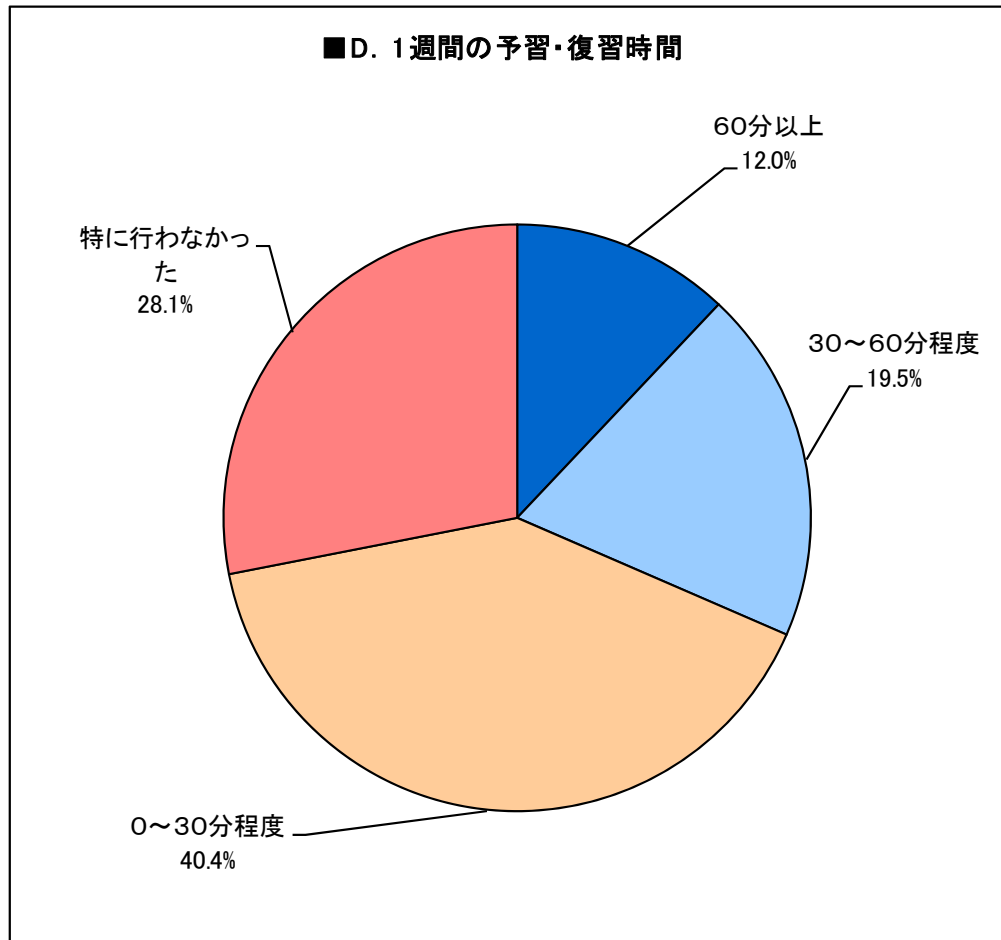
- 「K.授業に対する満足度」に関しては、「満足」が37.5%、「まあ満足」が36.7%であり、合わせると74.2%が授業に満足したという回答であった。そして、不満という回答は合わせて25.8%であり、全体の1/4となっていた。





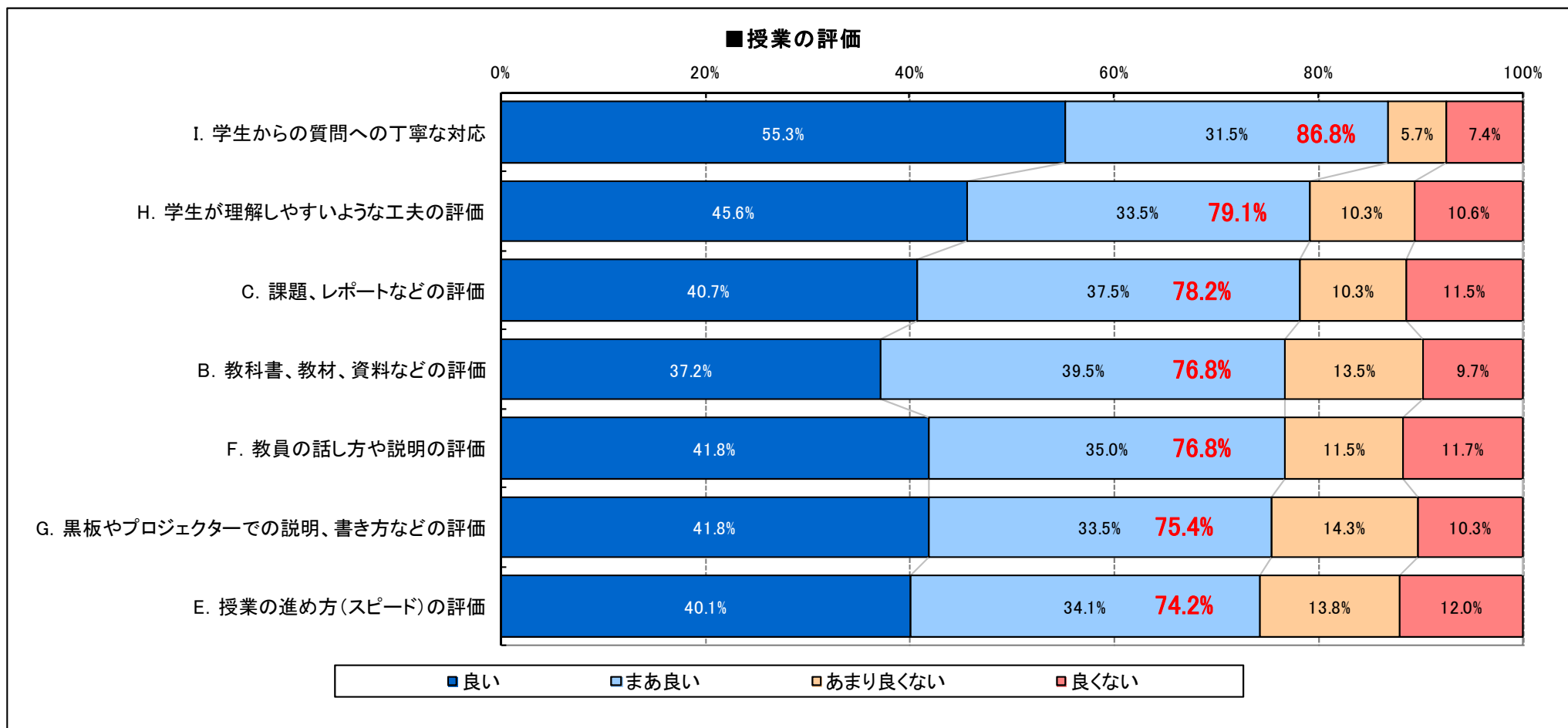
## 2) 1週間の予習・復習時間

- 「D.1週間の予習・復習時間」は、「1週間単位での授業に対する予習・復習は、どの程度行いましたか?」という質問であり、1つの科目に対する予習・復習時間を聞く質問となっている。
- 回答を見ると、最も多かったのは「0～30分程度」の40.4%であった。そして、「30～60分程度」が19.5%、「60分以上」が12.0%となっていた。また、「特に行わなかった」は28.1%であり、全体の3割程度であった。



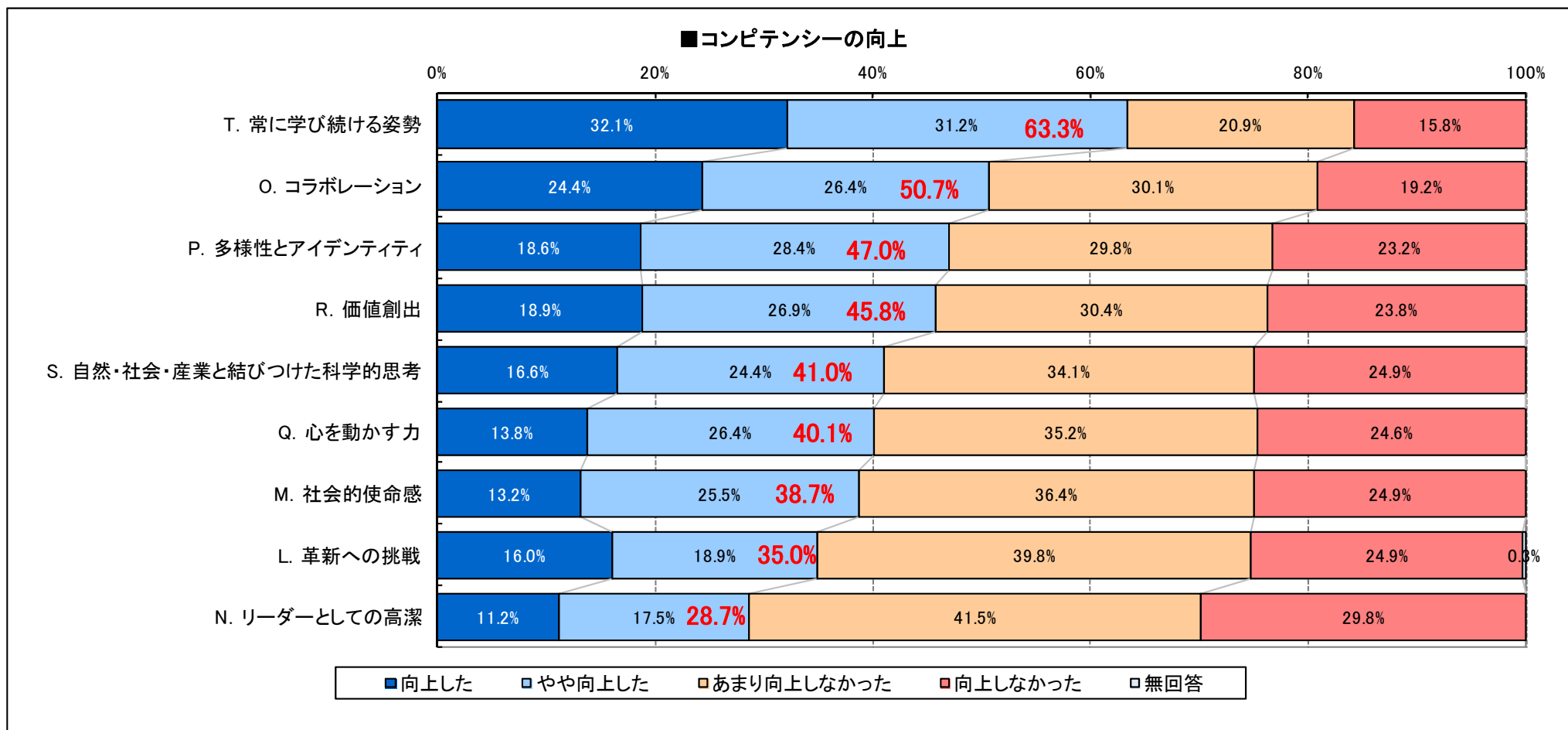
### 3) 授業の評価

- 授業の評価に関しては7つの質問としている。回答の選択肢は質問に合わせて「役に立った」「適切であった」「そう思う」などとしているが、7つの質問を比較するために、「良い」～「良くない」という形式でまとめている。
- 全体の中で最も評価が高かったのは「I.学生からの質問への丁寧な対応」で、肯定的な意見が86.8%となっており、特に「良い」が55.3%と半数を超えている点が特徴的であった。
- 上記に次いで、「H.学生が理解しやすいような工夫の評価」が79.1%、「C.課題、レポートなどの評価」が78.2%、「B.教科書、教材、資料などの評価」が76.8%と続いていた。
- 一方、最も評価が低かったのは「E.授業の進め方(スピード)の評価」の74.2%であった。ただし、他の項目と比べても、それほど低い評価とは言えないものであった。



#### 4) コンピテンシーの向上

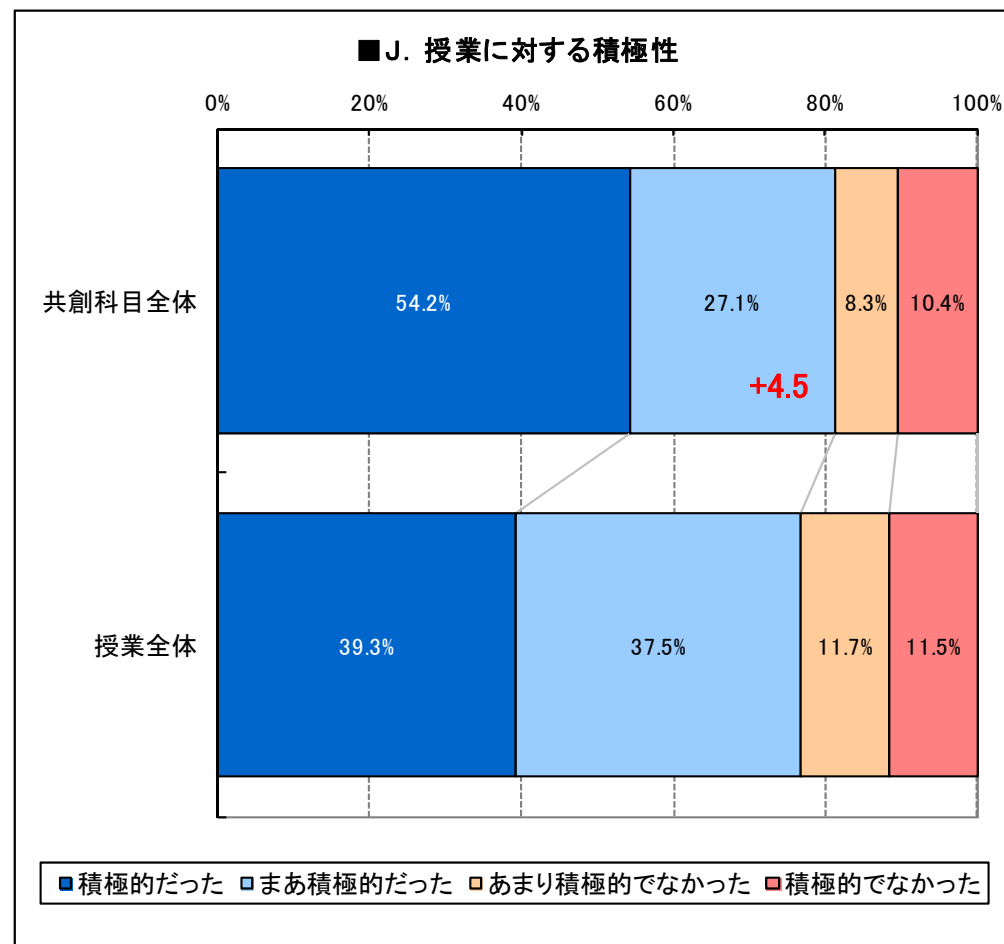
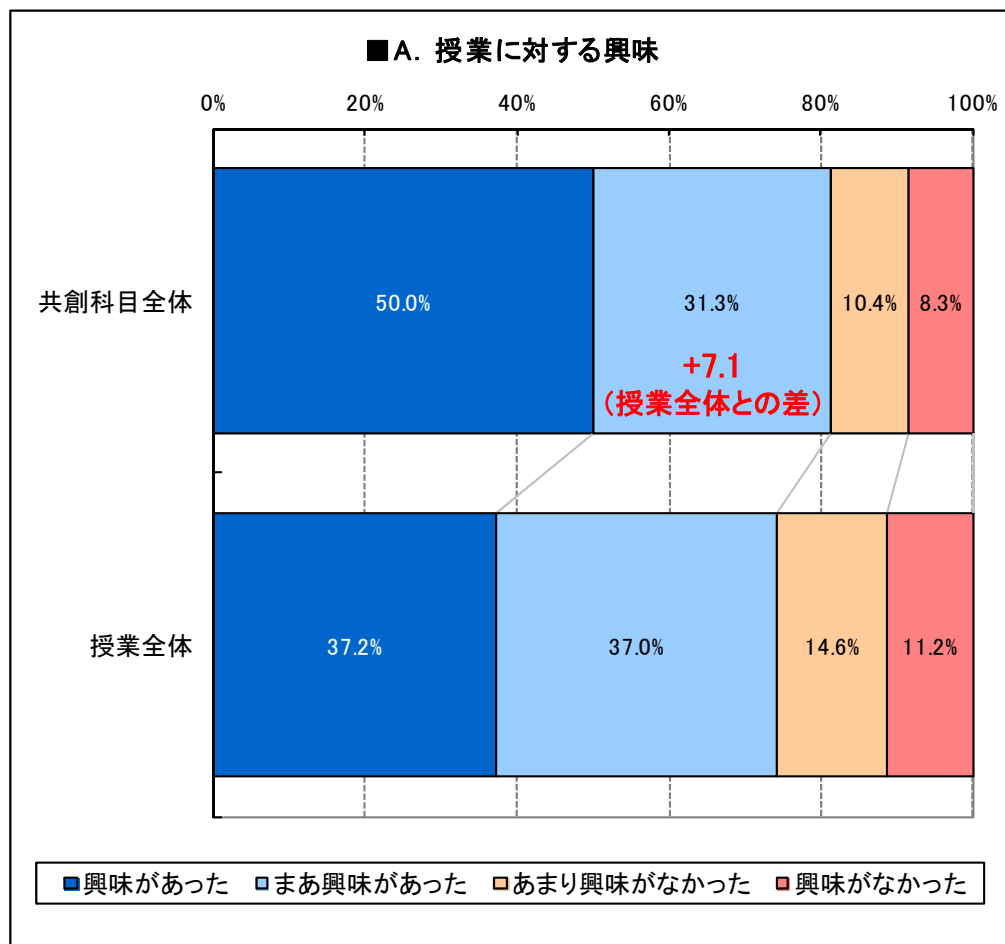
- 各科目のシラバスに掲げているコンピテンシーに関しては、「向上した」～「向上しなかった」の4択で聞いている。
- 肯定的な意見が最も多かったのは「T.常に学び続ける姿勢」であり、63.3%が向上したという回答であった。次いで、「O.コラボレーション」が50.7%、「P.多様性とアイデンティティ」が47.0%、「R.価値創出」が45.8%で続いていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「N.リーダーとしての高潔」であり、肯定的な意見は28.7%で「T.常に学び続ける姿勢」と比較すると34.6ポイントの差がついていた。また、この項目では、否定的な意見が71.3%と、目立って多かった。



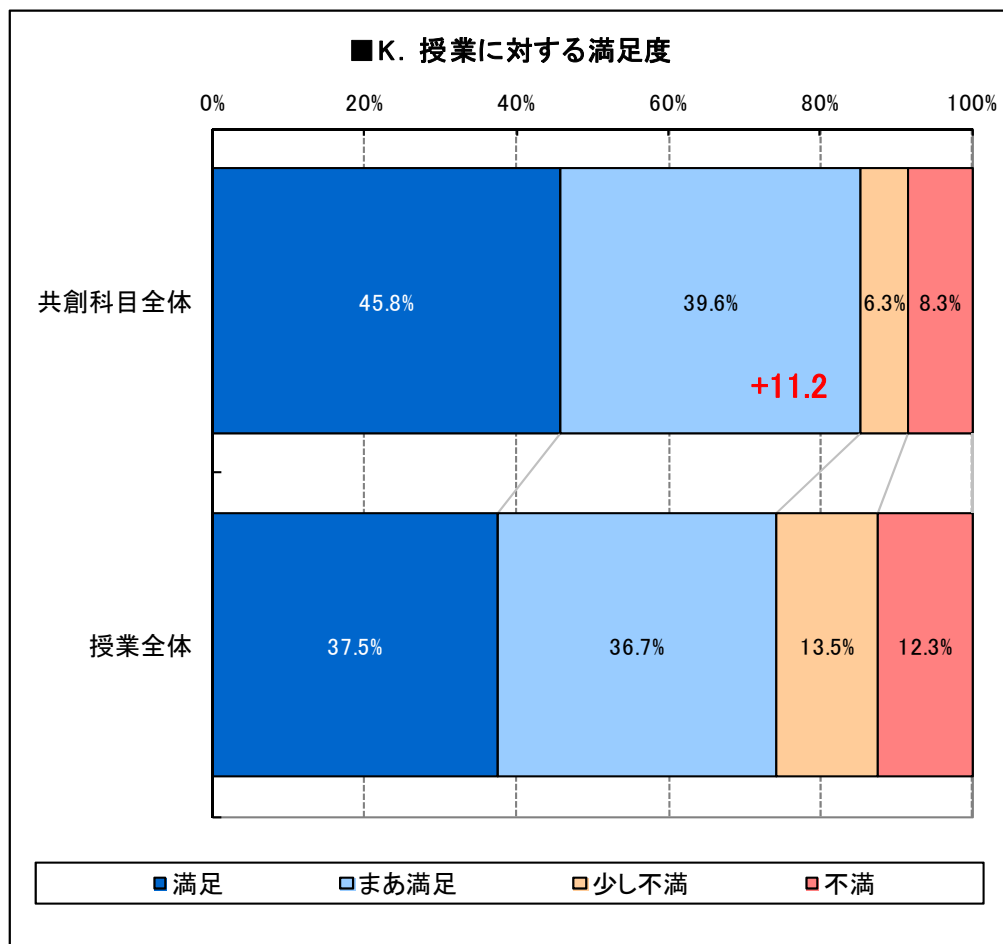
# <3> 共創科目に関して

## 1) 主要な3指標(興味、積極性、満足度)

- 国際高専の特徴的な科目である「共創科目(エンジニアリングデザイン I Aおよび I B、エンジニアリングコンテキスト I Aおよび I B)」だけを抽出して「授業全体」と比較した。グラフ中の赤字は肯定的な意見の差(「共創科目全体」-「授業全体」となる。
- 「A.授業に対する興味」の「共創科目全体」を見ると、「興味があった」が50.0%と半数で、「まあ興味があった」(31.3%)と合わせた肯定的な意見の合計は81.3%となり、「授業全体」の74.2%を7.1ポイント上回っていた。
- 「J.授業に対する積極性」の「共創科目全体」でも、「積極的だった」が54.2%と多く、肯定的な意見の合計は81.3%で、「授業全体」の76.8%を4.5ポイント上回っており、学生は共創科目の授業に積極的に取り組んでいる様子がうかがえた。

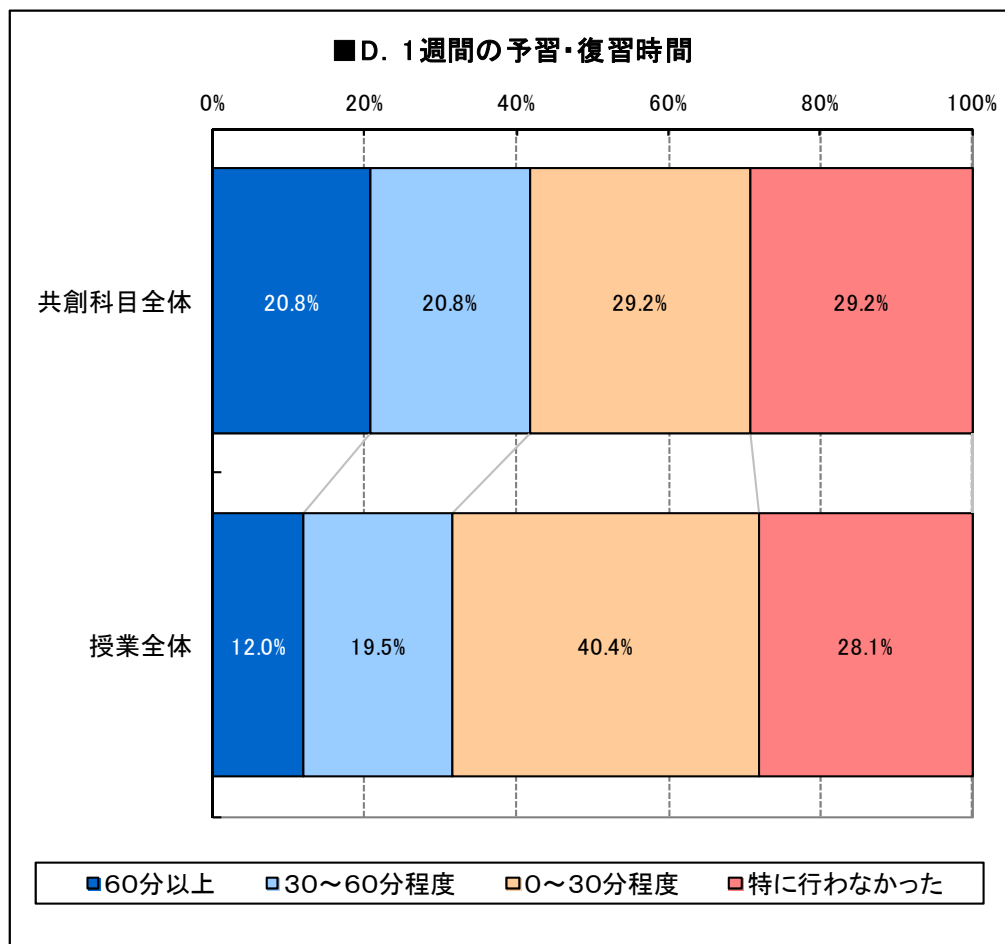


- 「K.授業に対する満足度」の「共創科目全体」を見ると、「満足」が45.8%、「まあ満足」が39.6%であり、合わせると85.4%が満足しているという回答であった。満足度は「共創科目全体」が「授業全体」の74.2%を11.2ポイント上回っており、非常に高い満足度と言える。



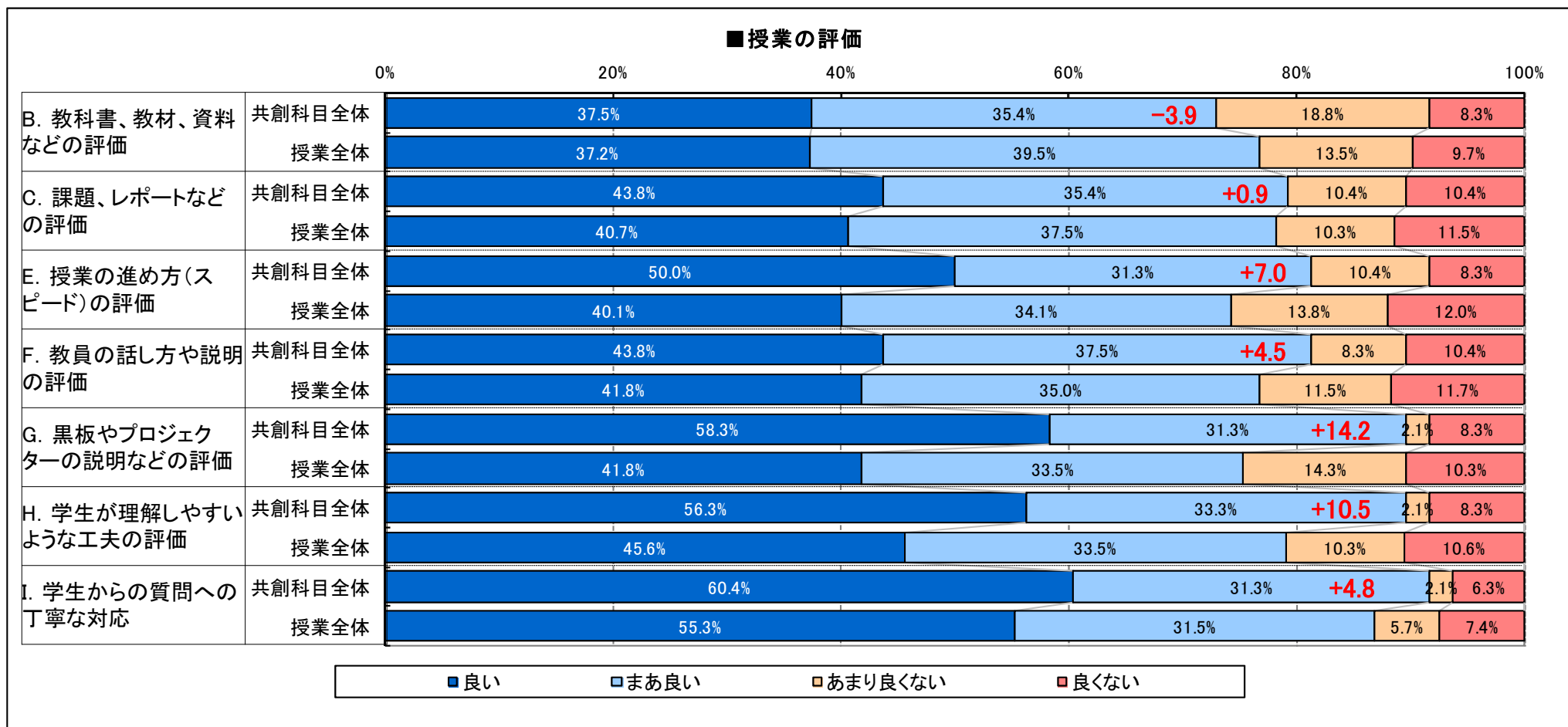
## 2) 1週間の予習・復習時間

- 「D.1週間の予習・復習時間」で「共創科目全体」を見ると、「0～30分程度」と「特に行わなかった」が29.2%、「60分以上」と「30～60分程度」が20.8%となっていた。
- 「授業全体」と比較すると、「共創科目全体」では「60分以上」が多く、「0～30分程度」が少ない点が特徴的であり、学生は「共創科目全体」に予習・復習時間を多く確保している様子がうかがえた。ただし、「特に行わなかった」割合は両者で変わらず、いずれも3割の学生が予習・復習時間を確保していないようであった。



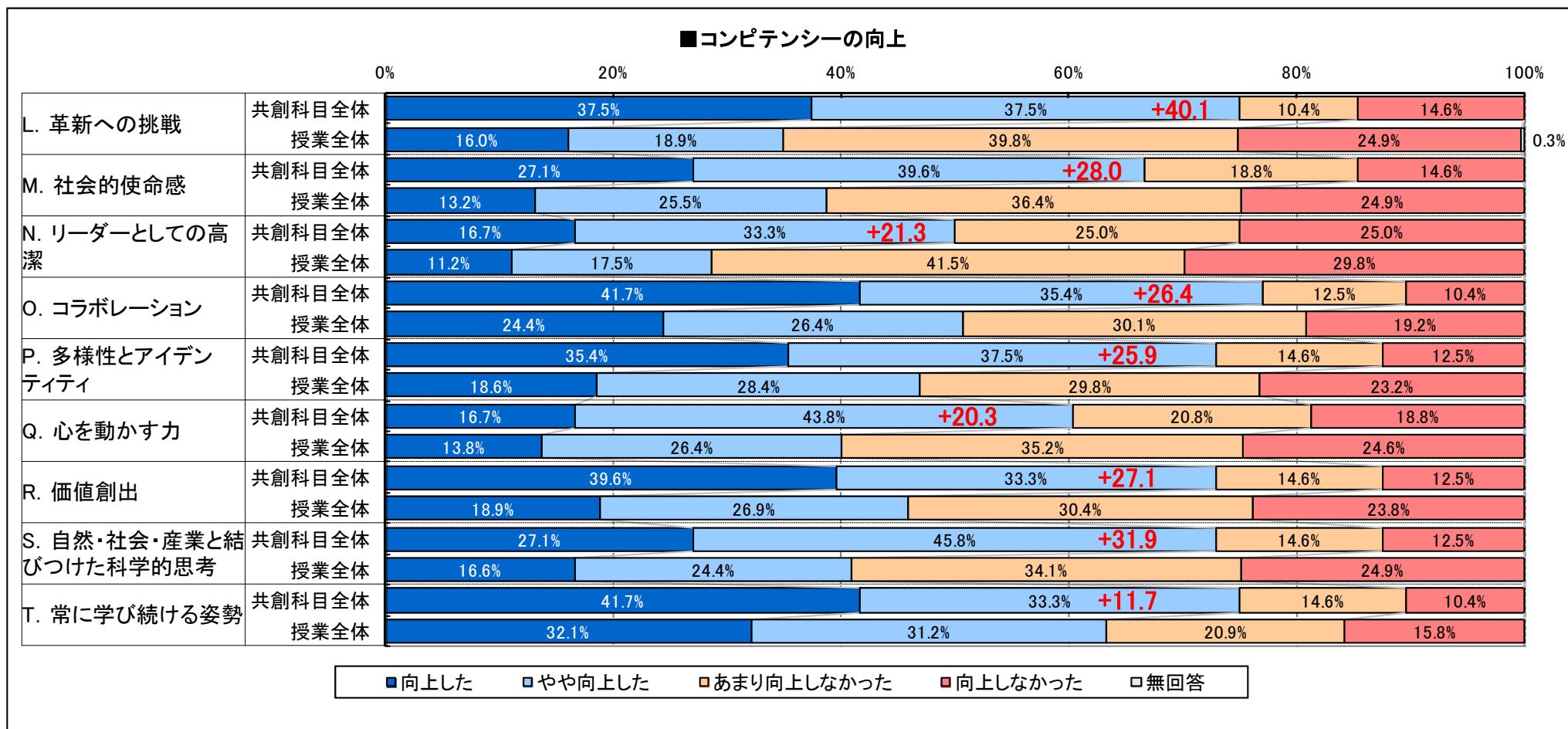
### 3) 授業の評価

- 授業の評価の7項目を「共創科目全体」と「授業全体」の肯定的意見の合計で比較したところ、「B.教科書、教材、資料などの評価」は「授業全体」の方が高かったものの、他の項目は全て「共創科目全体」の方が高かった。
- 最も差が大きかったのは「G.黒板やプロジェクターの説明などの評価」であり、14.2ポイントの差がついていた。この項目では特に「良い」が58.3%と多い点特徴的であり、「授業全体」とは16.5ポイントの差となっていた。
- 上記に次いで、「H.学生が理解しやすいような工夫の評価」が10.5ポイント差、「E.授業の進め方(スピード)の評価」が7.0ポイント差、「I.学生からの質問への丁寧な対応」が4.8ポイント差で続いていた。



#### 4) コンピテンシーの向上

- コンピテンシーの向上に関しては、全ての項目で「共創科目全体」の方が肯定的な意見が多く、「授業全体」と大きな差が出たものも見られた。
- 最も差が大きかったのは「L.革新への挑戦」であり、肯定的な意見の合計は「共創科目全体」で75.0%、「授業全体」で34.9%であり、両者の差は40.1ポイントと非常に大きかった。両者の差だけを見ると、次いで「S.自然・社会・産業と結びつけた科学的思考」が31.9ポイント、「M.社会的使命感」が28.0ポイント、「R.価値創出」が27.1ポイント、「O.コラボレーション」が26.4ポイントと続いており、「共創科目全体」の科目としての特徴がうかがえた。
- 両者の差が最も少なかったのは「T.常に学び続ける姿勢」であり、差は11.7ポイントであった。





# <4>科目別の評価

## 1)1年次で評価の高かった科目

- 「興味」「積極性」「満足度」を加重平均で点数化し、各々の点数が高い科目を10位まで抽出している。尚、受講生が1人しかいない科目は除外している。
- 各指標での1位は「興味」は「コンピュータスキルズ I A」、「積極性」では「エンジニアリングデザイン I A」と「エンジニアリングコンテキスト I A」と「コンピュータスキルズ I A」が同スコア、「満足度」では「文学 I」となっており、これらの科目は全体的に高い評価となっていた。
- 特に「コンピュータスキルズ I A」の評価は3指標共に上位の3位に入っており、それも含めて「共創科目」が上位に多く見られた。また、「興味」では上位に入っていなかった「国語表現 I A」が「積極性」で5位、「満足度」の3位に入っている点も特徴的であった。

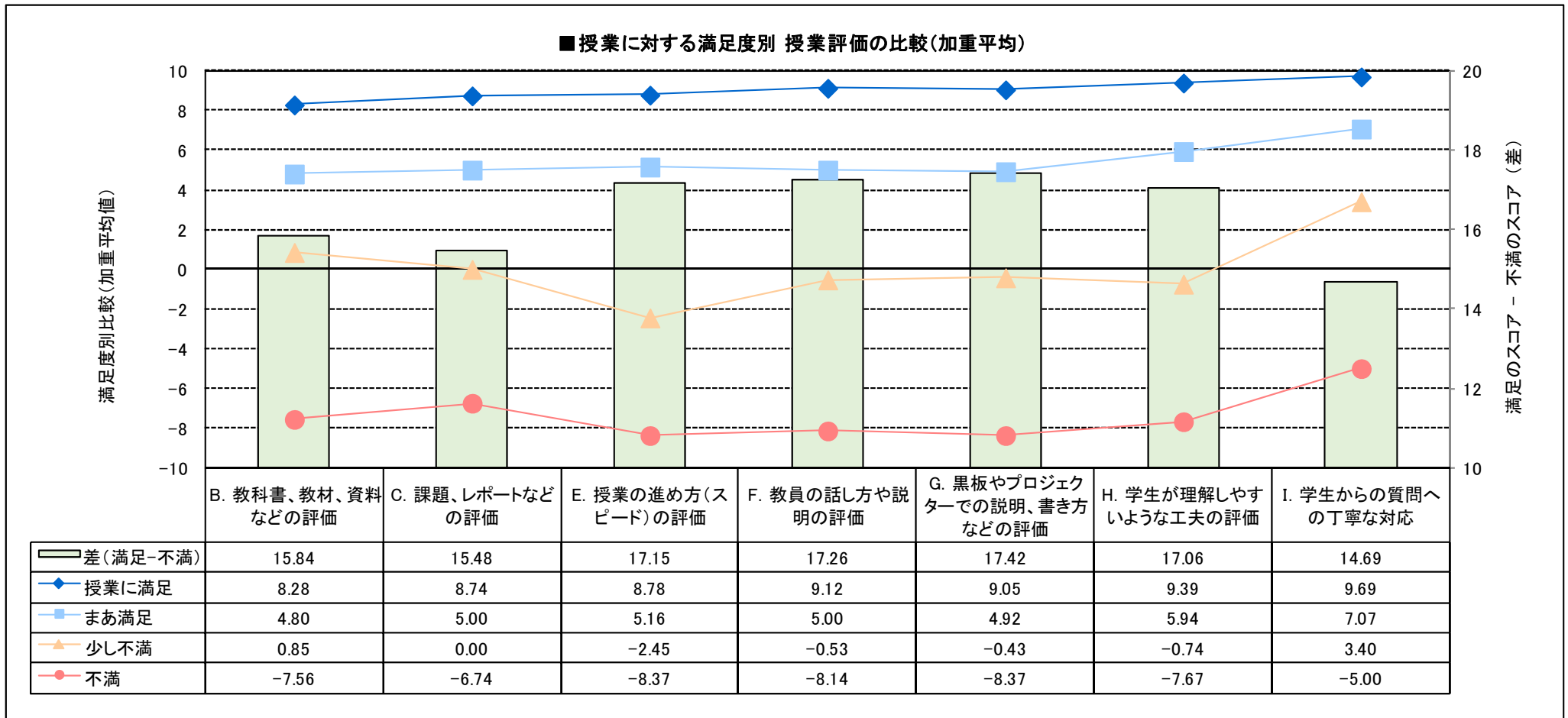
### ■今回、3指標で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	コンピュータスキルズ I A	9.17	エンジニアリングデザイン I A	8.75	文学 I	9.55
2	エンジニアリングデザイン I A	8.75	エンジニアリングコンテキスト I A	8.75	コンピュータスキルズ I A	9.17
3	エンジニアリングコンテキスト I A	8.33	コンピュータスキルズ I A	8.75	国語表現 I A	8.64
4	リスニング・スピーキング I A	7.73	文学 I	8.64	エンジニアリングコンテキスト I A	7.92
5	保健体育 I A	7.50	国語表現 I A	8.18	リスニング・スピーキング I A	7.73
6	リーディング・ライティング I A	7.27	ブリッジングリッシュ	7.50	国語表現 I B	7.27
7	文学 I	6.36	物理 I A	7.08	生物 I A	7.27
8	国語表現 I B	5.91	保健体育 I A	7.08	物理 I A	7.08
9	基礎数学A	5.91	歴史文化 I A	6.82	エンジニアリングデザイン I A	7.08
10	生物 I A	5.91	リーディング・ライティング I A	6.82	ブリッジングリッシュ	7.00
10	—		リスニング・スピーキング I A	6.82	—	

# <5> 満足度別の比較

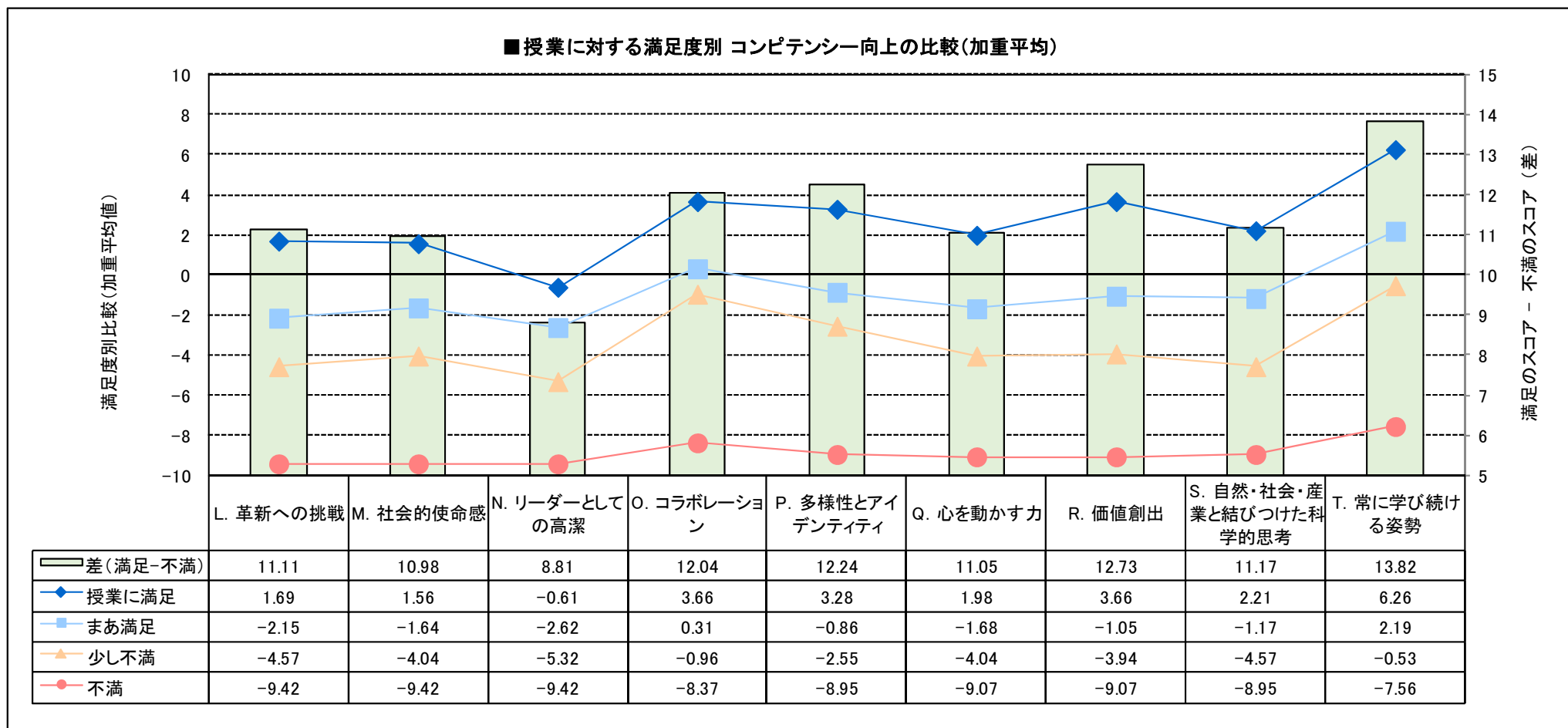
## 1) 授業に対する満足度別 授業評価の比較

- 授業評価(7項目)を授業の満足度別に比較した。授業評価は最も肯定的な回答から+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除した加重平均を用いて比較し、満足層と不満足層の差を見るために、「授業に満足」のスコアから「不満」をマイナスして棒グラフとしている。
- 満足度別の比較になる折線グラフを見ると、全ての項目で授業に満足している学生の評価が最も高く、満足度が低下するにつれて授業評価が低下している傾向が見られた。特に「授業に満足」の学生は全ての項目で8点台から満点に近く、ほとんど不満はないと言える。
- 一方、授業に対して「不満」と答えた学生では「I.学生からの質問への丁寧な対応」の評価はやや高いものの、多くの項目がマイナス8点台となっていた。そして、「少し不満」では「E.授業の進め方(スピード)の評価」が低い点が特徴的であった。
- 差を表す棒グラフを見ると、「G.黒板やプロジェクターでの説明、書き方など」「F.教員の話し方や説明」「E.授業の進め方(スピード)」「H.学生が理解しやすいような工夫」での差がやや大きく、この辺りに不満の要因がありそうであった。



## 2) 授業に対する満足度別 コンピテンシー向上の比較

- 前項と同様に授業の満足度別にコンピテンシーの向上の状況を比較したところ、全ての項目で授業の満足度が高いほど、授業の中でコンピテンシーの向上を実感している学生が多いことが確認できた。特に「授業に満足」と答えた学生は「N.リーダーとしての高潔」はマイナススコアであったものの、他の項目は全てプラスで広くコンピテンシーの向上を実感しており、特に「T.常に学び続ける姿勢」が高かった。
- 一方、「不満」と答えた学生は、ほとんどの項目で最低スコアであるマイナス10点に近くなっており、ほとんどの学生が向上を実感できなかったのではないと思われる。そして、「少し不満」でも全ての項目がマイナススコアであったが、「O.コラボレーション」「T.常に学び続ける姿勢」は高めであり、向上を実感している学生も少なくないと言える。
- 差を表す棒グラフを見ると、「N.リーダーとしての高潔」の差は少なく、授業満足度にかかわらず向上が難しいようであった。一方、「T.常に学び続ける姿勢」「R.価値創出」「P.多様性とアイデンティティ」「O.コラボレーション」などの差は大きく、授業満足度との関係がうかがえた。

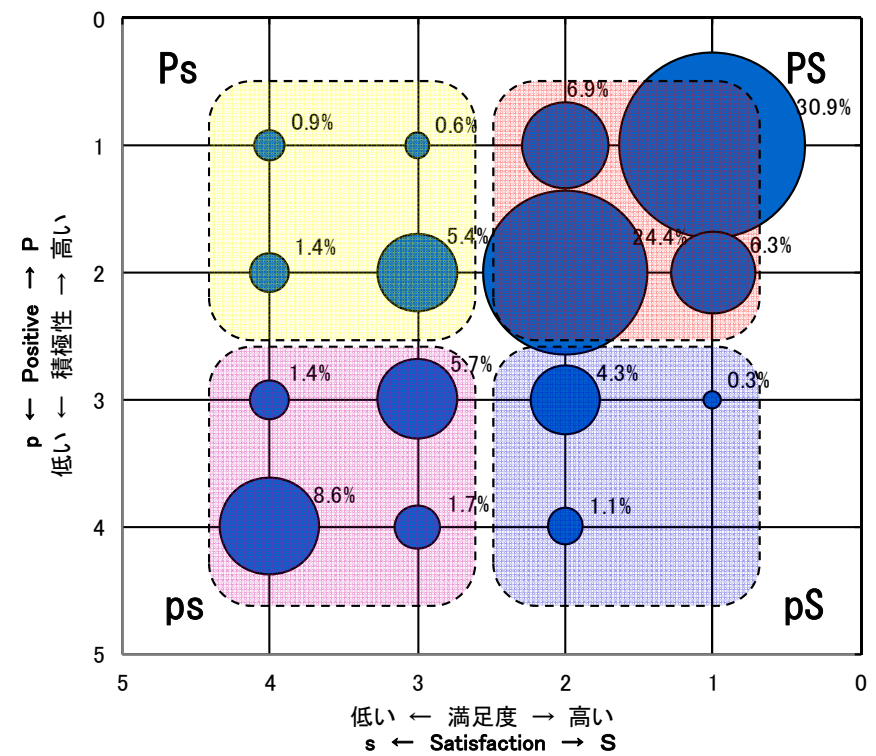


# <6>達成度に関して

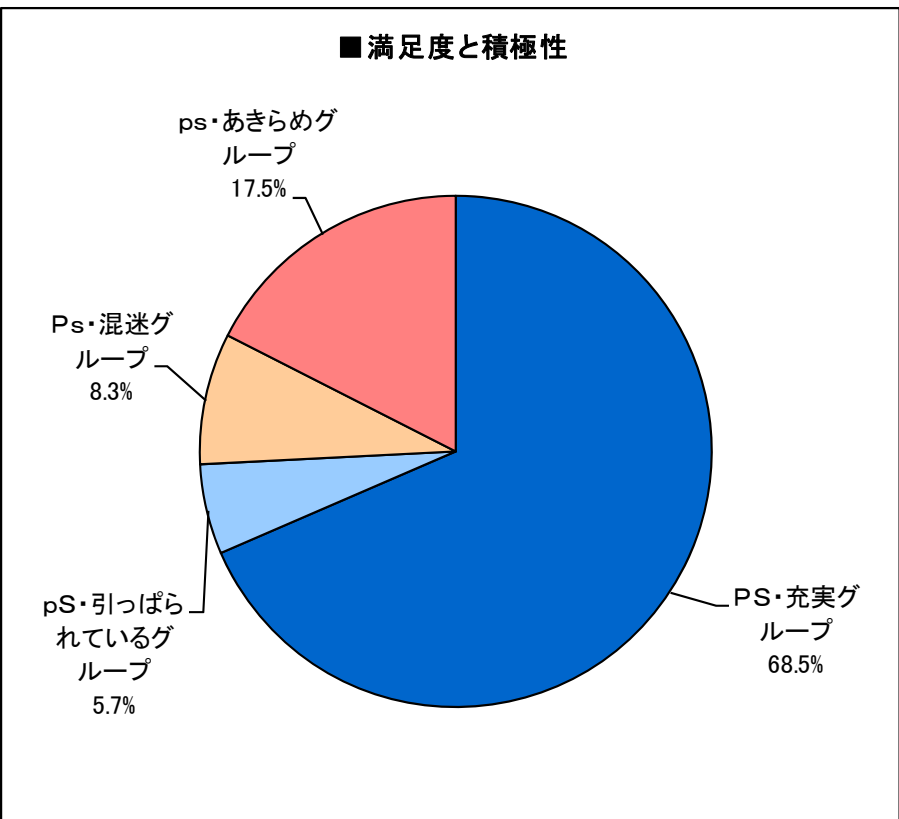
## 1) 全体傾向

- 従来の授業アンケートで、各科目の「達成度」のひとつの目安として使っていた「積極性」と「満足度」の組み合わせによるPS指標を見ると、「ある科目に対して積極であり、満足度が高く充実していた」という「PS・充実グループ」が全体の68.5%と大勢を占める結果となっていた。
- 「PS・充実グループ」の内訳を見ると、「積極的」かつ「満足」の層が30.9%で、非常に充実して授業を受けた学生が3割いたことになる。
- 上記以外では、「pS・引っぱられているグループ」が5.7%、「Ps・混迷グループ」が8.3%、「ps・あきらめグループ」が17.5%という割合であった。
- この指標は、学生にこのようなグループがあるという意味合いではなく、「ある科目に対しては「PS・充実グループ」と答えているが、別のある科目に対しては「ps・あきらめグループ」と答えている」といった見方をするものとなる。

■ 満足度と積極性の関係



■ 満足度と積極性



■ PS指標の内訳

記号	指標	想像される特性	領域の合計
PS (充実グループ)	●積極性も満足度も高い	●授業に積極的に取り組み、結果として満足度も高い。 ●最も良い状態にあり、達成度も高いと想像できる。	68.5%
pS (引っぱられているグループ)	●積極性は低い ●満足度は高い	●それほど頑張らなかつたが、満足している。周囲、教員に引っぱられてうまくいっている。 ●求めるレベルが低いことも考えられるが、授業が期待以上というケースも考えられる。	5.7%
Ps (混迷グループ)	●積極性は高い ●満足度は低い	●目標が高すぎたことも考えられるが、授業内容が期待はずれ。 ●最も注意すべき状態であり、授業の中でこの層の満足度を上げることが重要。	8.3%
ps (あきらめグループ)	●積極性も満足度も低い	●授業に期待がなく積極性が低く満足度も低い。 ●まず、授業に取り組む態度を見直させることが必要。	17.5%

## **【Ⅱ】2年次～5年次 授業調査分析報告書**

# <1>全体概略

## 1)調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は、国際高等専門学校<sup>1</sup>の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、国際高等専門学校全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 調査終了直後に作成した「速報版」は各科目の担当教員が個別に1年間の授業の評価を振り返るためのものであるが、本報告書は全体の傾向を分析し、全体的な改善の方向性を検討するためのものである。
- 平成30年度から、1年次と2～5年次の調査項目が同一ではなくなったため分析報告書も別立てとなっており、本報告書は2～5年次のものとなる。

## 2)調査の概略

調査の概略は下記の通り。

項目	内容		
分析データ件数 対象者		H30年度のべ回答数	H30年度在校生数
	2年次	1,171件	81名
	3年次	1,076件	79名
	4年次	1,634件	103名
	5年次	1,091件	81名
	全体合計	4,972件	344名
	・最終回収数は5,051件であったが、回答数が10件未満など、一部の科目(14科目、79件)は集計から除外している。		
対象科目	193科目(春・夏学期に実施された科目も含む)		
実施方法	・各授業の最終日に20分程度の記入時間をとって行った。 ・調査票は学生が回収し、教員ではなく学生が事務局に届けるものとした。 ・回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。		
調査主体	学校法人 金沢工業大学		
集計	有限会社 アイ・ポイント		

### 3)実施スケジュール

調査のラフスケジュールは下記の通り。

作業	ステップ	時期	備考
速報版作成作業	調査実施(2~5年次)	1月31日~2月18日	各授業の最終日に実施
	データ入力(2~5年次)	2月6日~2月19日	OMRにより処理
	速報版完成(2~5年次)	3月11日	2~5年次のデータは2月22日に受け取り
最終報告書作成作業	報告書作成	4月5日	

### 4)集計に関して

1. 加重平均:各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。選択肢が「そう思う~そう思わない」などのような段階的な選択肢を用いた。加重平均はこれらの選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。無回答は回答者数に含めていない。
2. 学科別の集計は「電気電子工学科」「機械工学科」「グローバル情報学科」の3つの学科で比較を行った。「グローバル情報学科」は新しい呼称であり、4年次から5年次は「グローバル情報工学科」の所属であるが、新しい呼称に統一している。
3. 部会は「一般」「語学」「数理」「T(電気電子工学科)」「M(機械工学科)」「G・J(グローバル情報学科)」の6つとした。
4. 回答数が10件未満などで除外した科目(14科目、79件)は下記となる。

●OP科目:5科目、20名

33051	電気回路Ⅱ(OP)	1名
33071	電気磁気学Ⅱ(OP)	1名
35242	材料力学Ⅰ(OP)	3名
35305	機械製図演習(OP)	3名
38153	情報処理Ⅲ(OP)	12名

●回答数が10件未満:9科目、59名

23031	応用物理Ⅰ	5名
24071	回路シミュレーション	5名
24091	ソフトウェア工学	8名
26075	機械材料Ⅱ	7名
29083	カレントイングリッシュ	7名
34111	インターンシップⅡ	8名
36142	インターンシップⅡ	8名
39016	英語総合技能A	7名
39083	インターンシップⅡ	4名



# <2> 基本的な集計

## 1) 授業への取り組み姿勢

- 今回 (H30) より1年次を別集計しているため、グラフは「2年次から5年次」のデータとなっている。
- 「A. 授業への興味(あなたは、この授業を興味を持って受けられたと思いますか?)」では、「そう思う」が27.2%で前回とほぼ同じであった。ただし、「まあそう思う」が前回は2.2ポイント下回り、肯定的な意見の合計は80.5%と、前回は2.3ポイント下回った。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間(この授業に対し宿題を含めて、どの程度予習・復習しましたか?)」を見ると、「60分以上」が18.5%で過去最高となった。また、「30~60分」が21.8%、「0~30分」が15.7%であり、ここまでの合計は56.0%で過去最高となった。そして、「試験前だけ」が24.8%で過去最低となり、「しなかった」は過去2番目の少なさの18.6%であった。

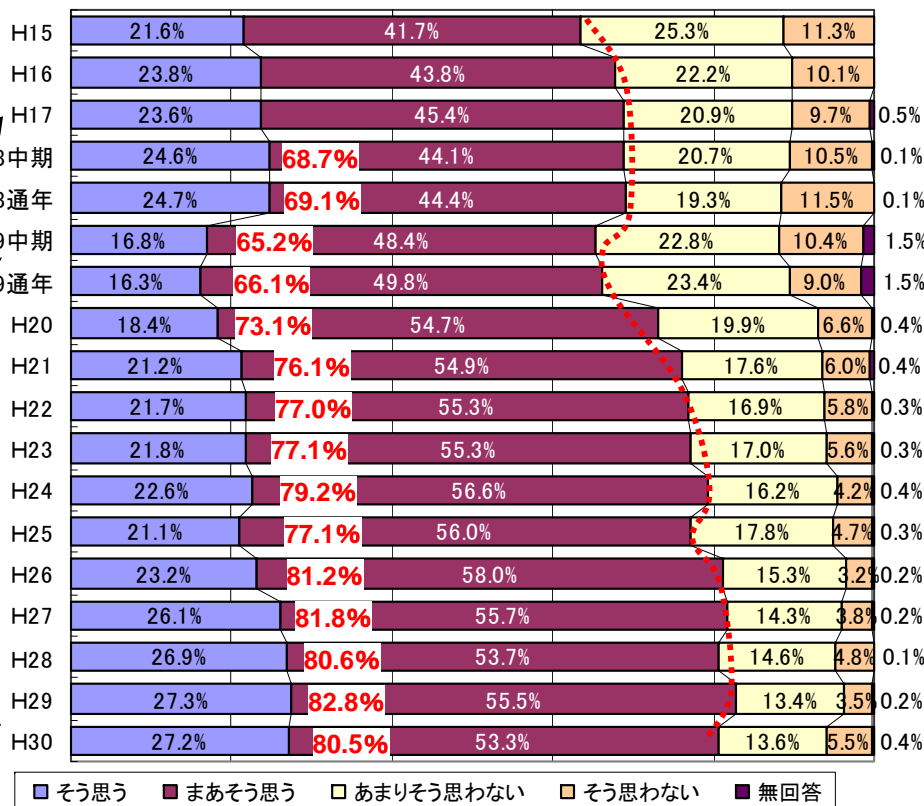
### ■ A. 授業への興味

0% 20% 40% 60% 80% 100%

H18中期から  
無記名化

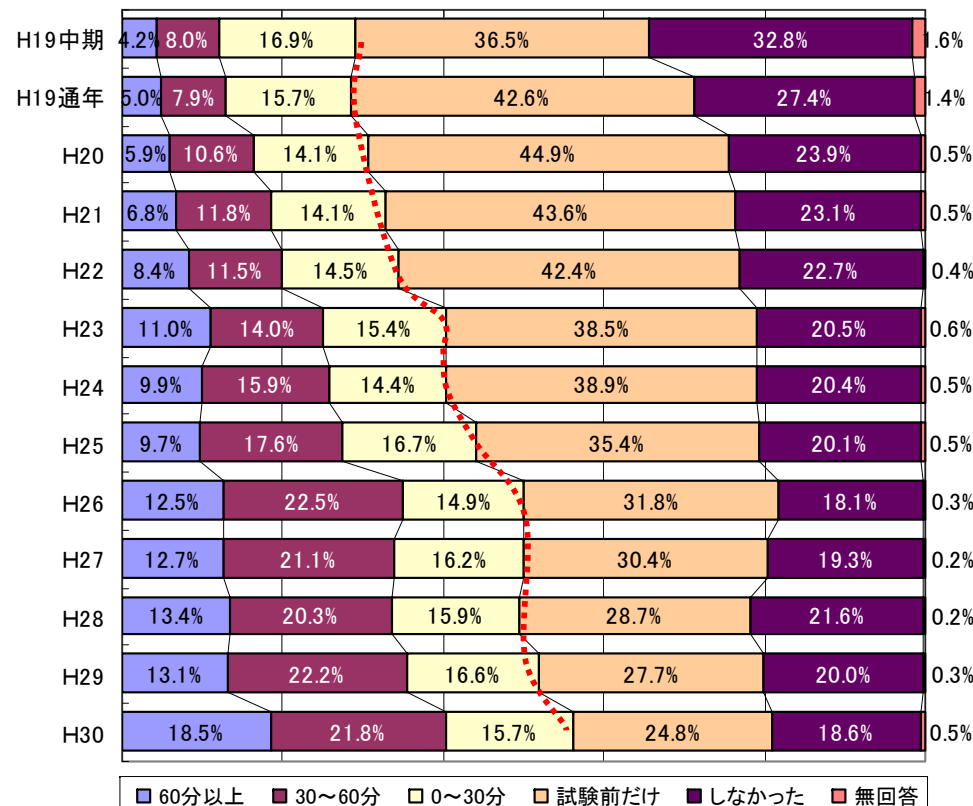
H19中期から  
調査票変更

1年次を  
別集計



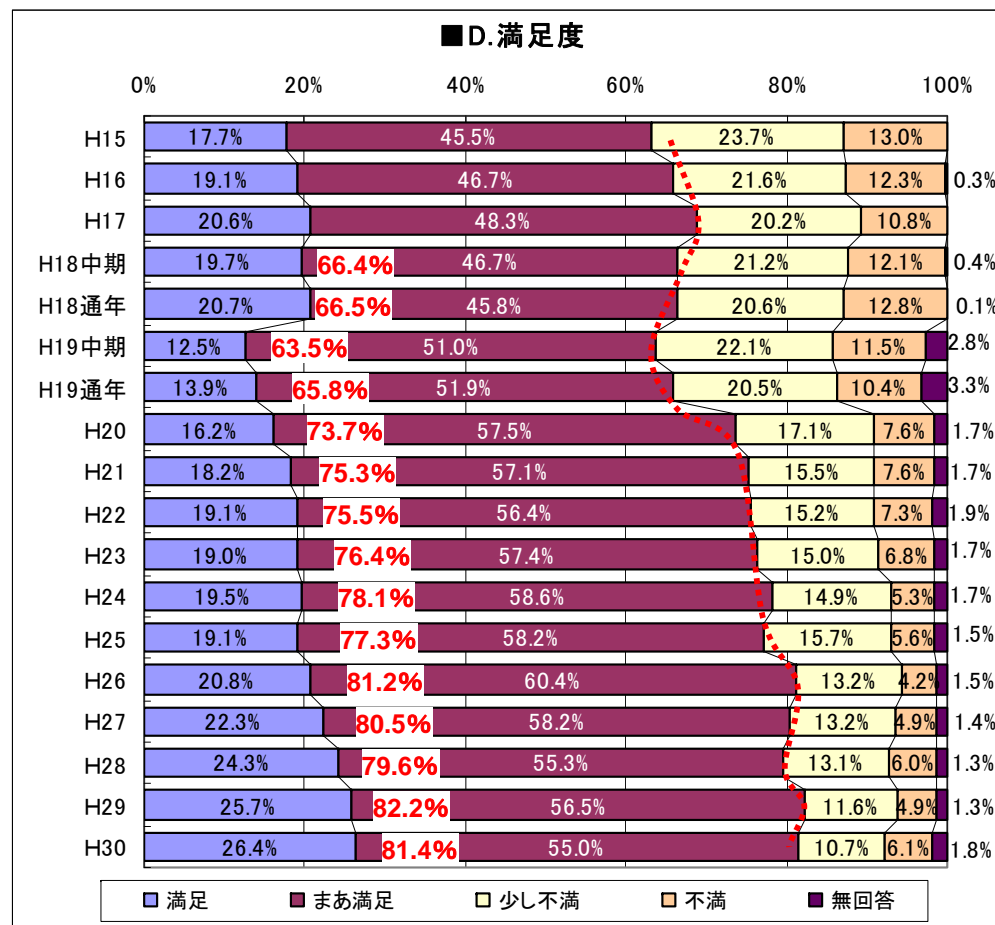
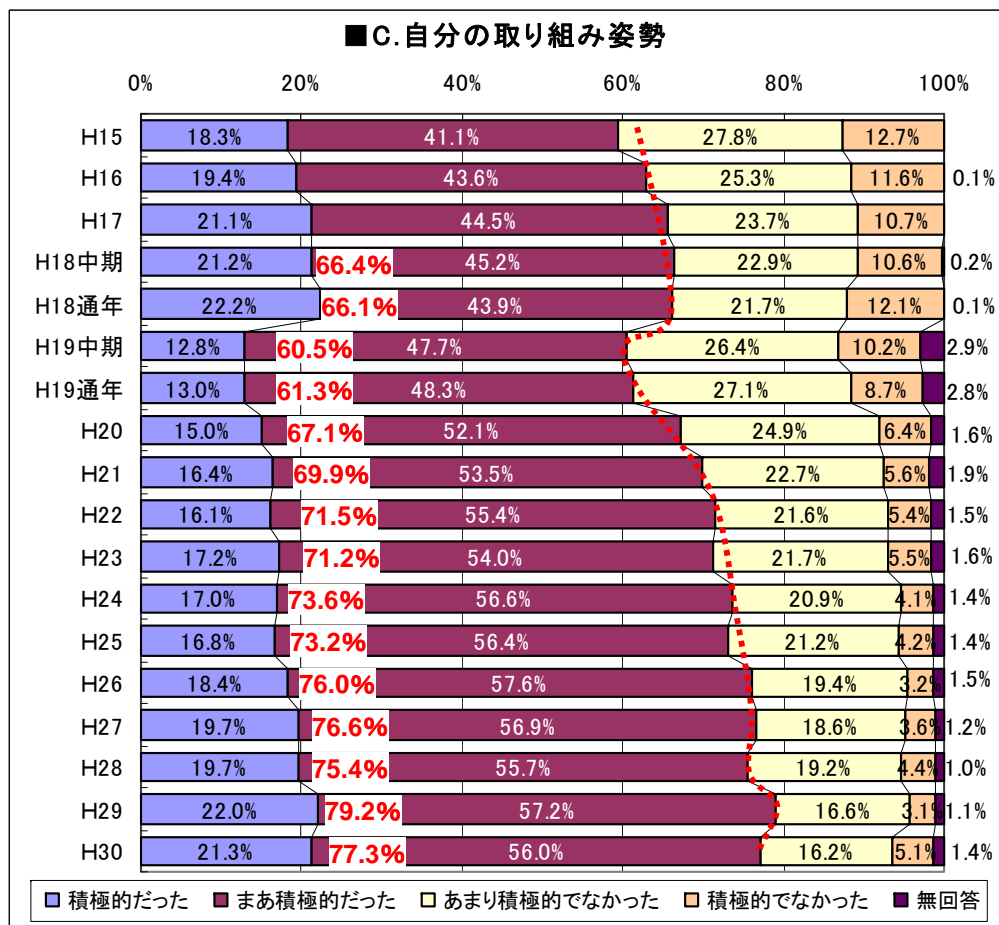
### ■ B. 授業に対する宿題、予習、復習時間

0% 20% 40% 60% 80% 100%



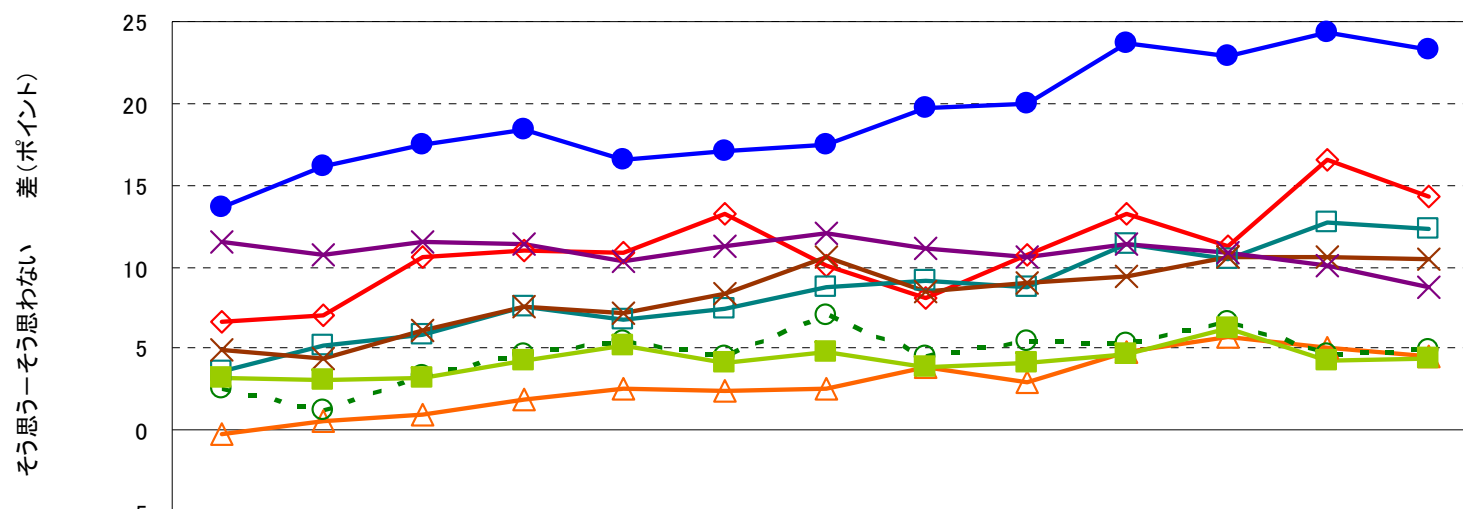


- 「C. 自分の取り組み姿勢(あなたは、この授業に対して積極的に取り組みましたか?)」では、「積極的だった」が21.3%で前回をわずかに下回り、「まあ積極的だった」の56.0%を加えると、肯定的な意見の合計は77.3%となった。過去最高であった前回をわずかに下回ったが、非常に積極的な様子が見えかけた。
- 「D. 満足度(あなたはこの授業に満足していますか?)」では、「満足」が26.4%と過去最高となった。そして、「まあ満足」の55.0%を加えると81.4%で、過去最高であった前回をわずかに下回ったものの、満足度は非常に高い状態が継続していることが確認できた。一方で、不満を持っているという学生の合計は16.8%にとどまっていた。



- 「E.授業に関する評価」の「そう思う」と「そう思わない」差を時系列で見ると、ほとんどの項目で横這いかやや減少する傾向が見られた。
- 前回からの低下が大きかったのは「1.好きな科目である」であった。また、「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」も前回から低下していた。この2項目は前回が過去最高の評価であった。
- 前回より評価が上がったのは「6.授業中の話し方や説明がわかりやすかった」の1項目だけで、わずか0.2ポイントの上昇であった。また、前回から横這いだったのは、「7.授業は、学生が理解しやすいように工夫されていた」だけであり、これらの他の項目は全て前回は下回っていた。

■ E.授業に関する評価の時系列比較

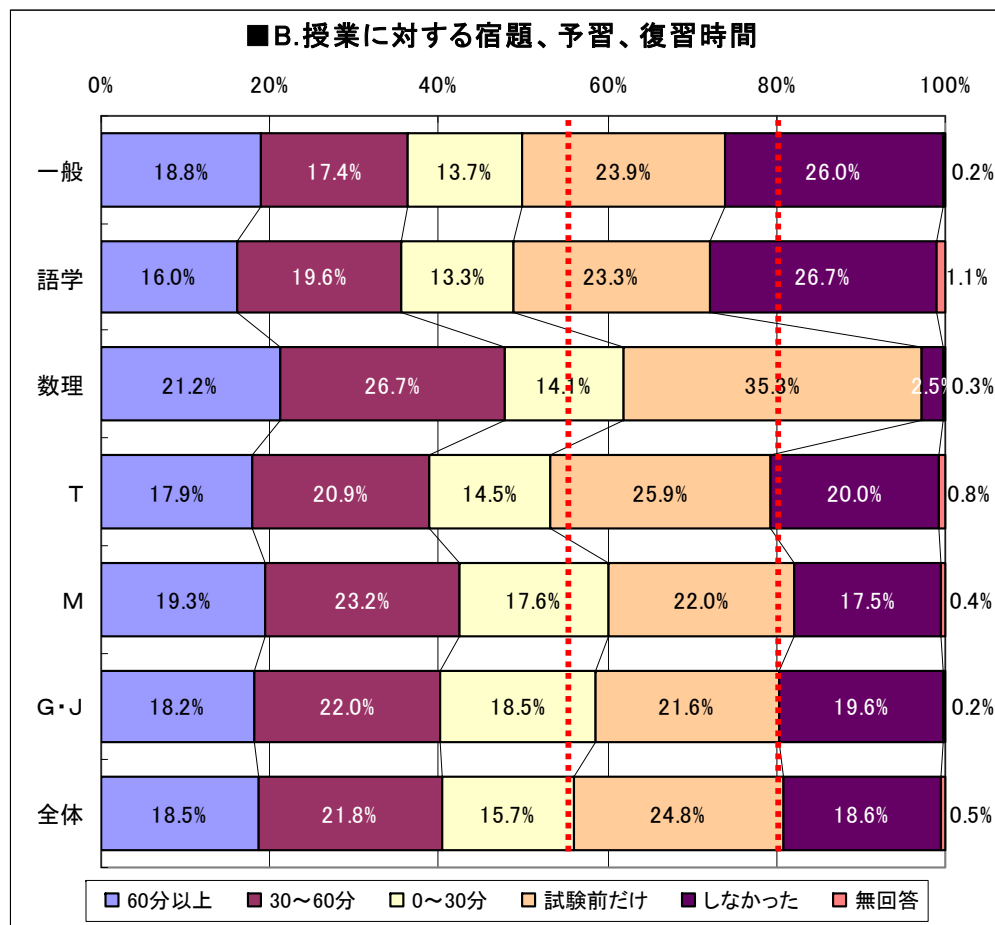
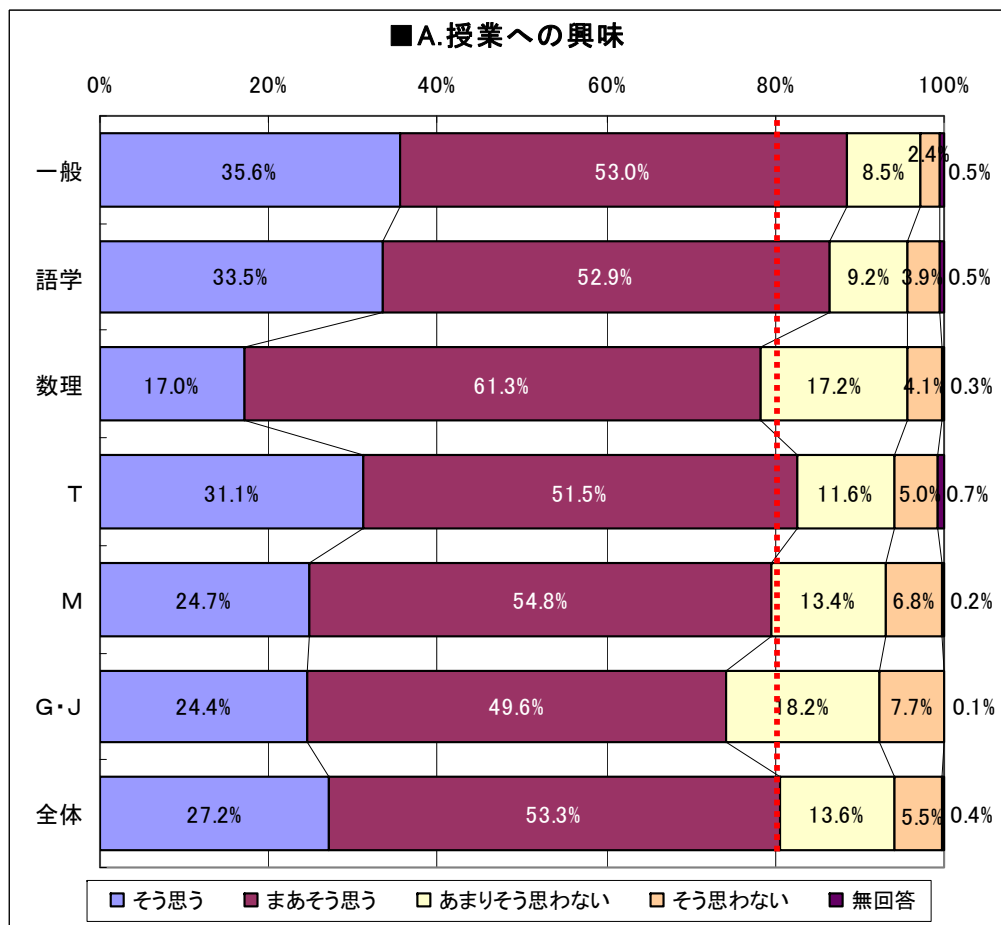


	H19中期	H19通年	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
◆ 1.好きな科目である	6.6	7.1	10.6	10.9	10.8	13.3	10.1	8.1	10.8	13.2	11.2	16.6	14.3
● 2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ	13.6	16.1	17.5	18.4	16.5	17.0	17.4	19.8	19.9	23.6	22.9	24.3	23.3
□ 3.課題やレポートなどが適切であった	3.6	5.2	5.9	7.5	6.8	7.4	8.7	9.2	8.7	11.4	10.4	12.7	12.4
× 4.授業の進め方(スピード)が適切であった	4.9	4.4	6.2	7.5	7.2	8.4	10.5	8.4	9.0	9.5	10.5	10.6	10.5
△ 5.黒板やビデオ・OHPの説明、書き方が良かった	-0.2	0.5	0.9	1.9	2.6	2.4	2.5	3.8	3.0	4.8	5.6	5.1	4.5
○ 6.授業中の話し方や説明がわかりやすかった	2.5	1.2	3.3	4.6	5.4	4.5	7.0	4.5	5.4	5.3	6.6	4.7	4.9
■ 7.授業は、学生が理解しやすいように工夫されていた	3.2	3.0	3.1	4.2	5.2	4.1	4.7	3.8	4.2	4.6	6.3	4.3	4.3
× 8.授業中や授業後に、学生の質問に丁寧に対応した	11.5	10.7	11.5	11.4	10.3	11.2	12.1	11.1	10.6	11.3	10.8	10.1	8.7

# <3> 部会別の比較

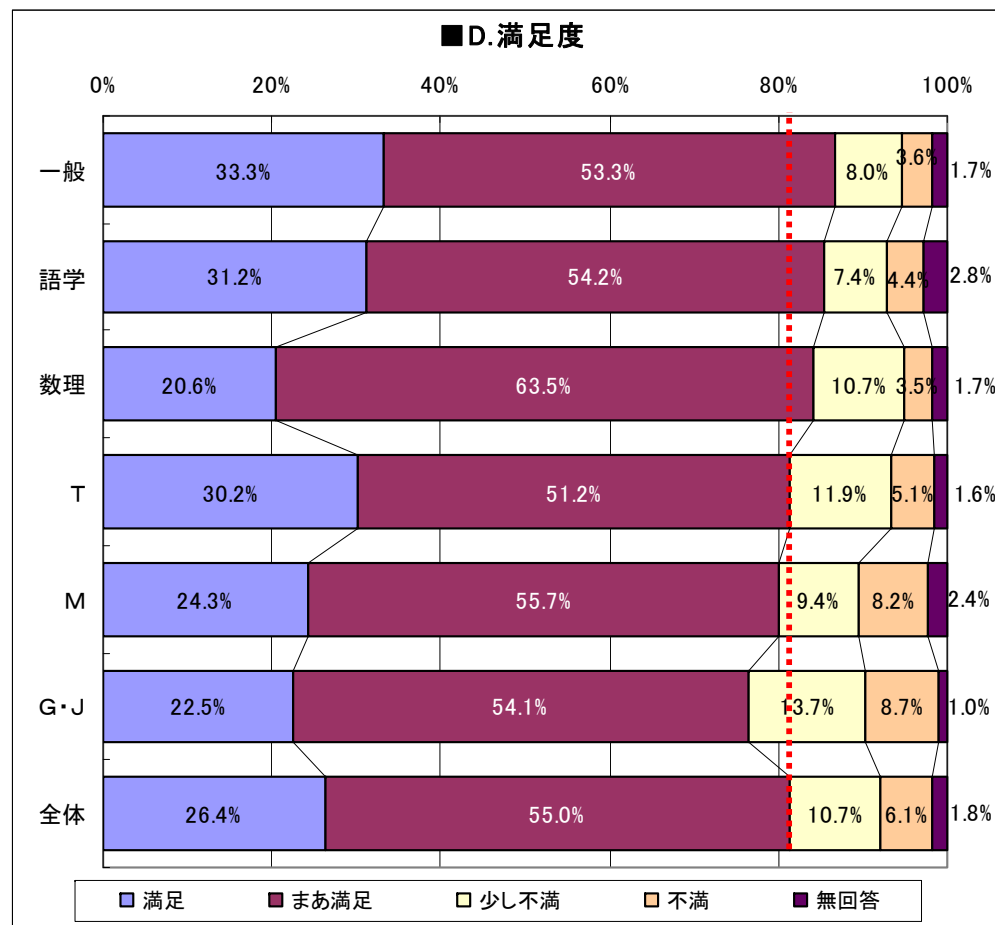
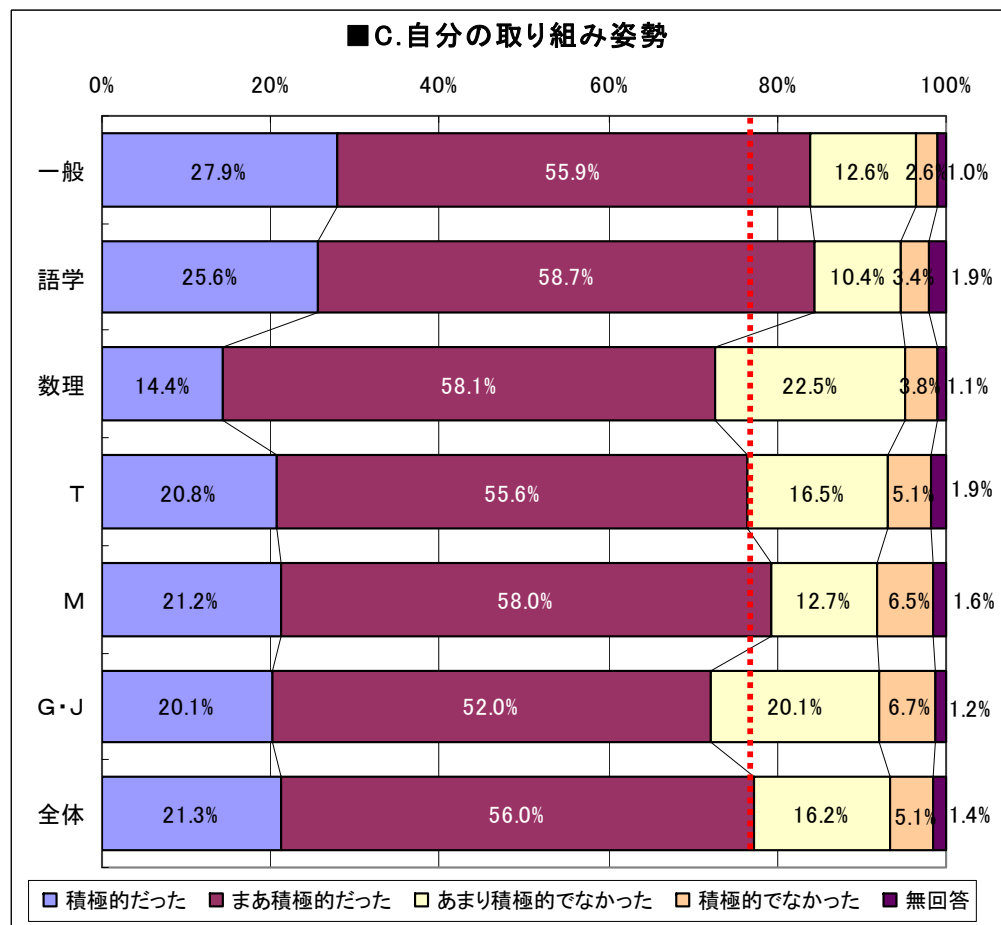
## 1) 部会別 授業への取り組み姿勢比較

- 「A. 授業への興味」を部会別に比較したところ、肯定的な意見が最も多かったのは「一般」の科目であり、88.6%が興味を持って授業を受けていた。次いで、「語学」が86.4%、「T」が82.6%で続いていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「G・J」の74.0%であり、「一般」との差は14.6ポイントであった。次いで、「数理」が78.3%、「M」が79.5%であった。ただし、「そう思う」だけを見ると「数理」の低さが目立っていた。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間」を「60分以上」「30～60分」「0～30分」の合計で比較すると、「数理」が62.0%で最も多かった。「数理」は「しなかった」が2.5%と非常に少ない点も特徴的であり、「数理」の科目に対してはしっかり勉強しているようであった。
- 「数理」以外の部会では、差はそれほど大きくなかったが、「M」と「G・J」の科目で勉強時間をよくとっており、「しなかった」の割合は「語学」と「一般」の科目で多くなっていた。



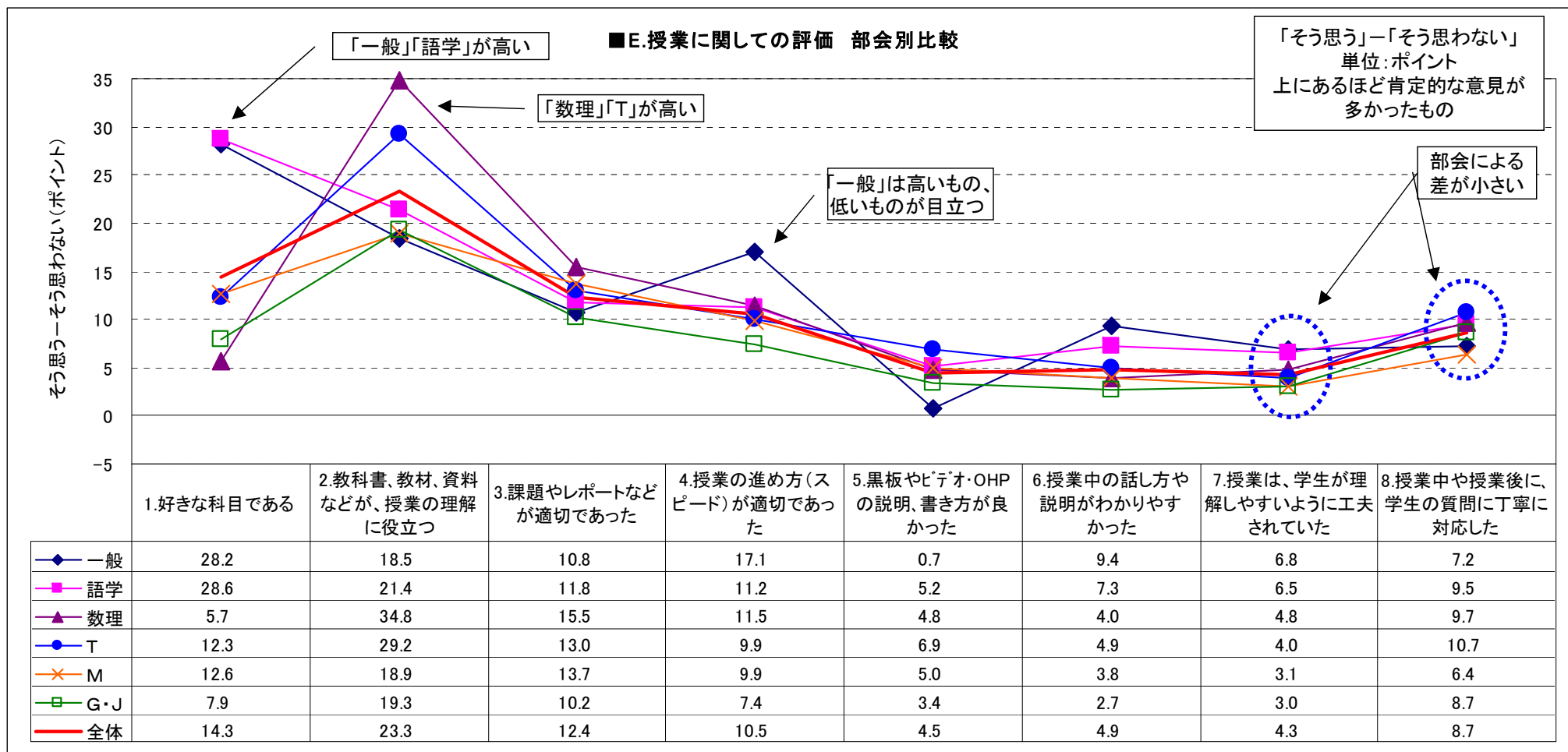
※部会の略称は以下の通り。T: 電気電子工学科、M: 機械工学科、G・J: グローバル情報学科

- 「C. 自分の取り組み姿勢」の肯定的な意見を部会で比較すると、「語学」が84.3%で最も多く、次いで「一般」が83.8%、「M」が79.2%と続いており、これらの科目に対する積極性の高さがうかがえた。一方、最も肯定的な意見が少なかったのは「G・J」の72.1%であり、「数理」が72.5%となっていた。ただし、「積極的だった」だけを見ると「数理」が14.4%と少なさが目立っていた。
- 「D. 満足度」で肯定的な意見が最も多かったのは「一般」の86.6%であり、次いで、「語学」が85.4%、「数理」が84.1%と続いていた。特に「満足」だけを見ると「一般」の33.3%、「語学」が31.2%が目立っており、満足度の高さがうかがえた。一方、満足度が最も低かったのは「G・J」の科目に対する76.6%であり、「一般」と比較すると10.0ポイントの差があった。



### 3)部会別 授業に関するの評価比較全体比較

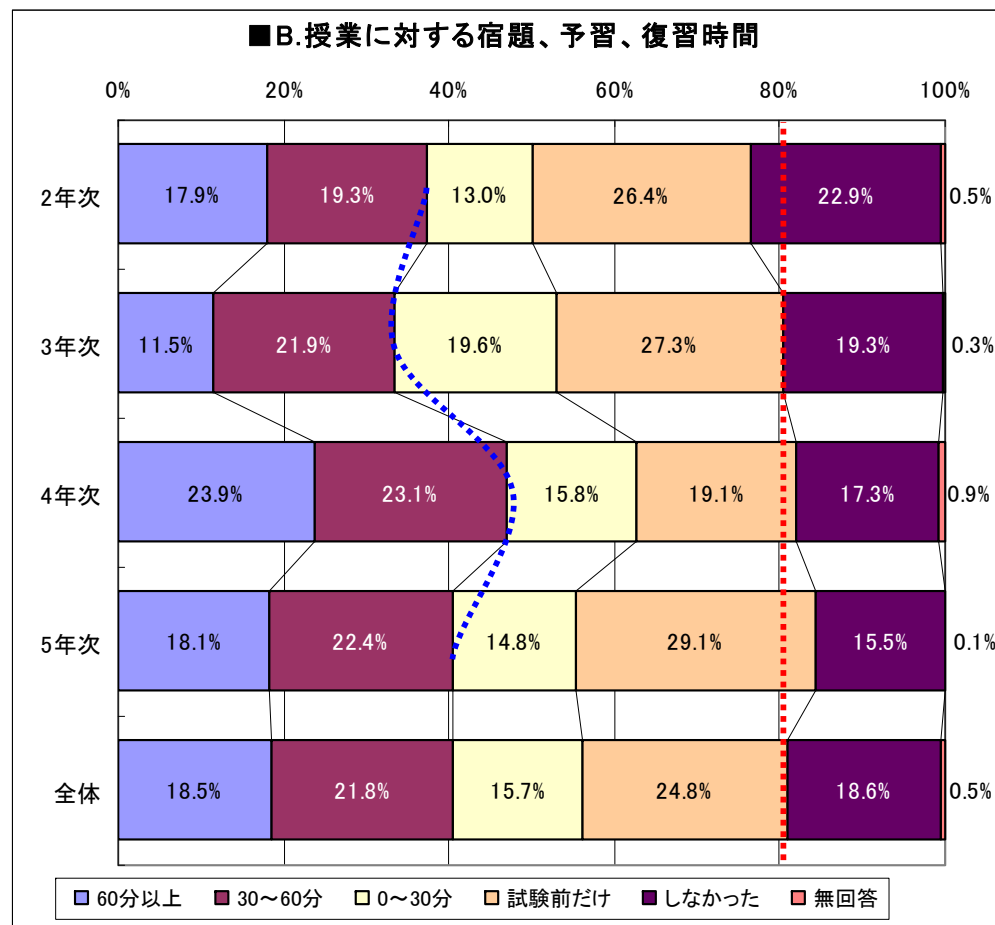
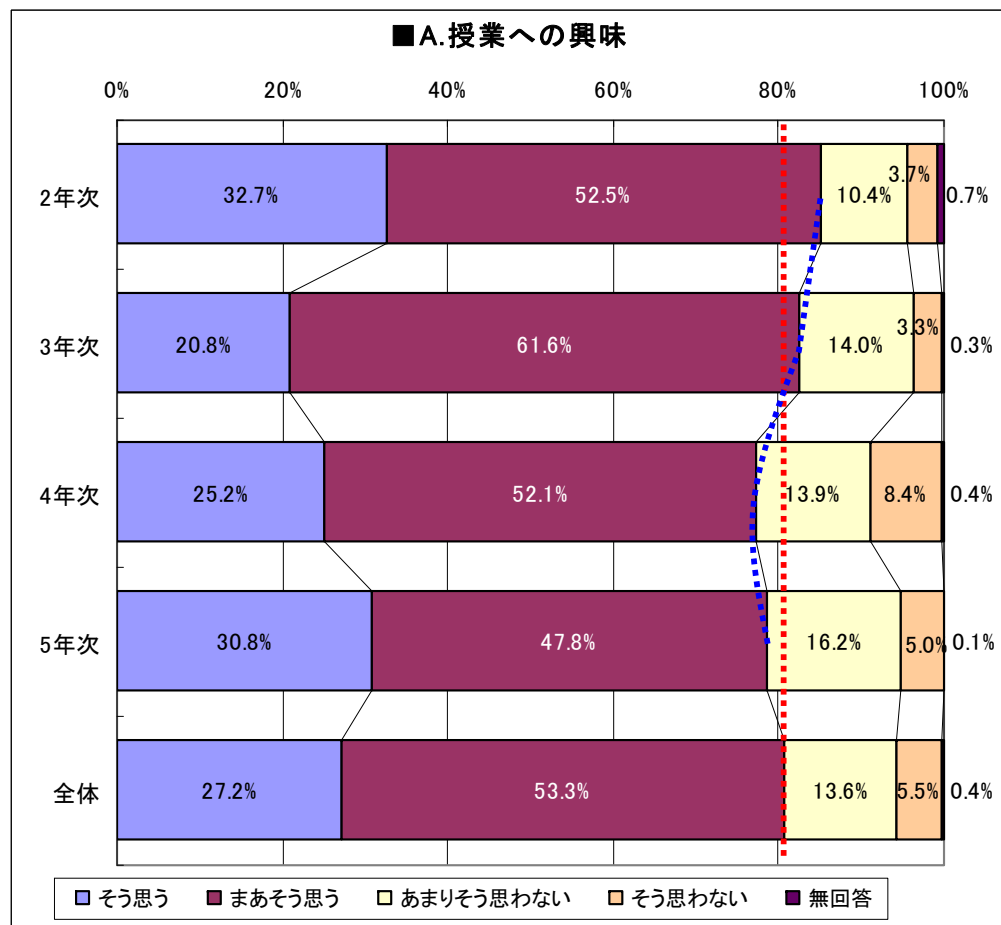
- 各科目に対する授業評価を部会別に比較すると、「1.好きな科目である」で「一般」と「語学」、「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」で「数理」と「T」が高い点が目立っており、部会の違いによる科目の特徴がうかがえた。
- 「一般」の科目は評価が高いものと低いものが目立っており、上記の「1.好きな科目である」以外では、「4.授業の進め方(スピード)が適切であった」「6.授業中の話し方や説明がわかりやすかった」が高めで、「5.黒板やビデオ・OHPの説明、書き方が良かった」が低かった。
- 部会による差が小さかったのは、「7.授業は、学生が理解しやすいように工夫されていた」と「8.授業中や授業後に、学生の質問に丁寧に対応した」の2項目であった。



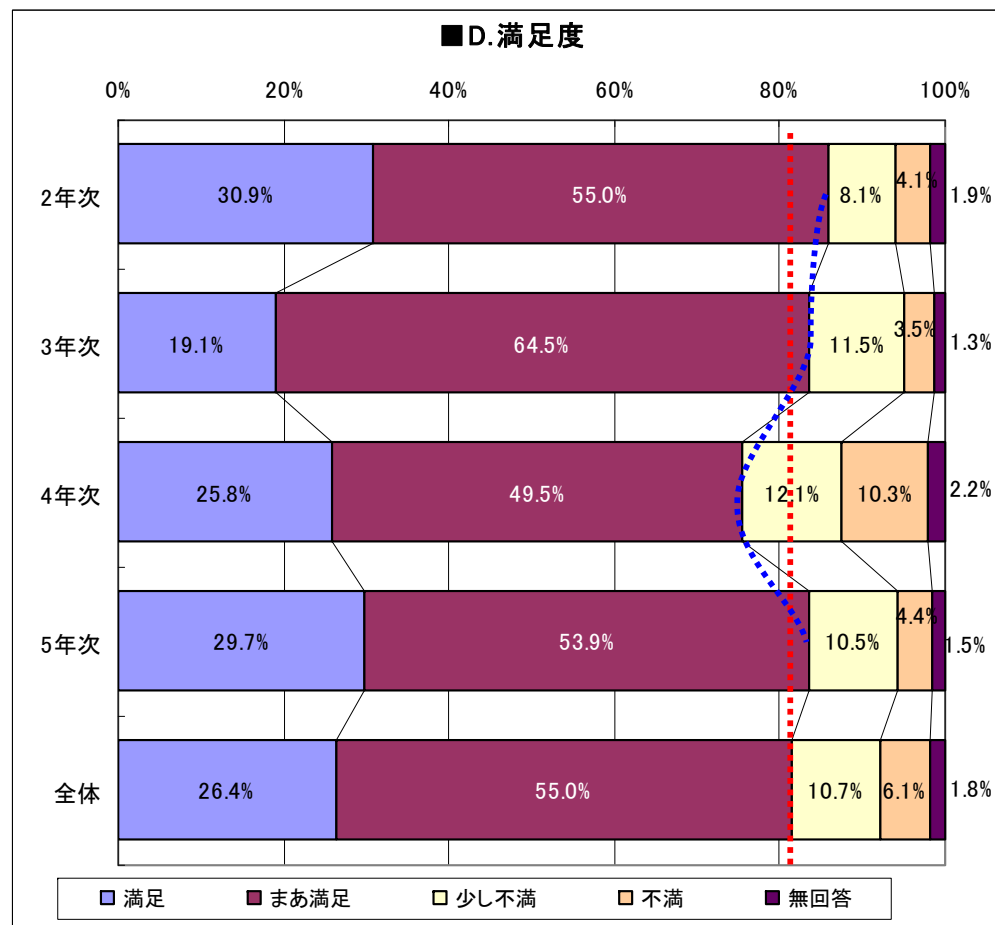
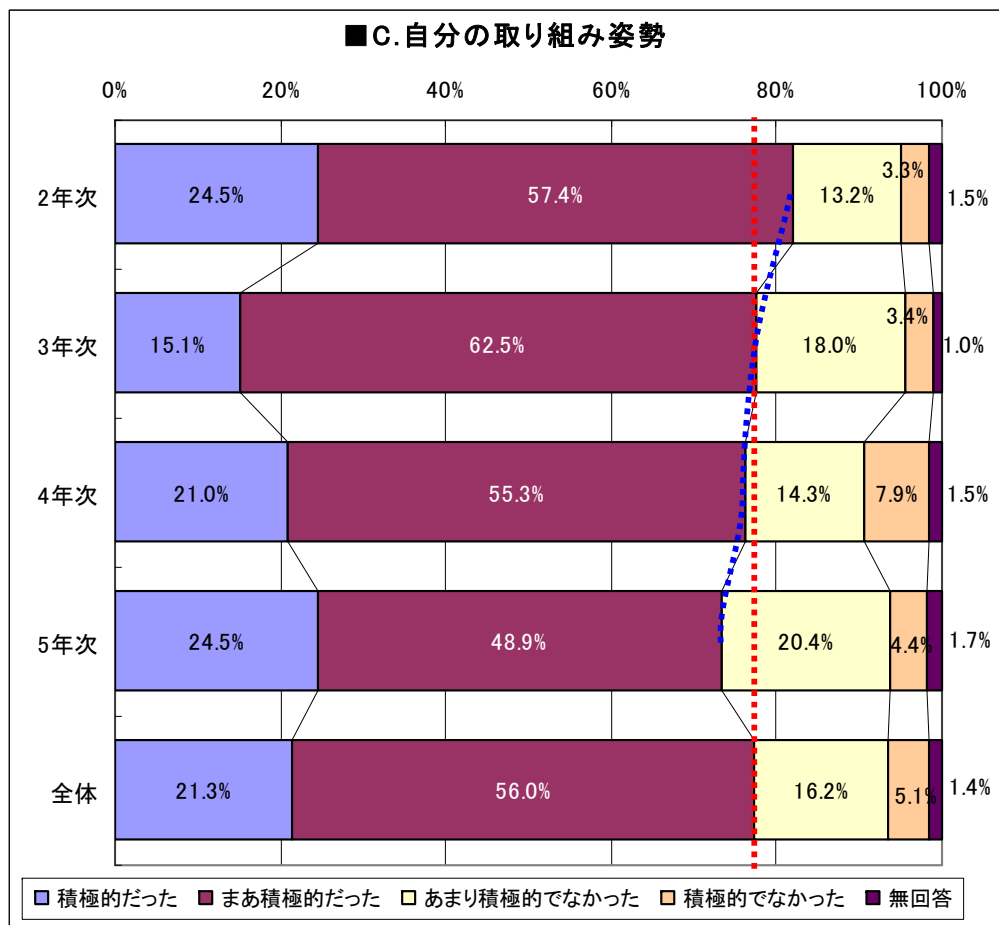
# <4> 学年別の比較

## 1) 学年別 授業への取り組み姿勢比較

- 今回から「1年次」のみ授業調査の調査票が別内容となるため、学年別の比較は「2年次」から「5年次」までの比較となっている。
- 「A. 授業への興味」で学年別に肯定的な意見の合計を比較したところ、「2年次」が85.2%で最も多かった。2年次は特に「そう思う」が32.7%と多く、授業に強い興味を持って取り組んでいる様子が見えられた。
- 上記に次いで、「3年次」が82.4%、「5年次」が78.6%、「4年次」が77.3%と続いており、差はそれほど大きくなかった。ただし、「そう思う」だけを見ると「5年次」の30.8%が目立っており、強い興味を持っている学生が多いことが確認できた。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間」に関して、「60分以上」と「30～60分」の合計で比較すると、「4年次」が47.0%で最もしっかりと勉強時間を確保していた。次いで、「5年次」が40.5%、「2年次」が37.2%、「3年次」が33.4%と続いていた。
- 勉強時間の長さや学年との相関関係は見られなかったが、「しなかった」だけをみると高学年ほど少なくなる傾向が見られた。



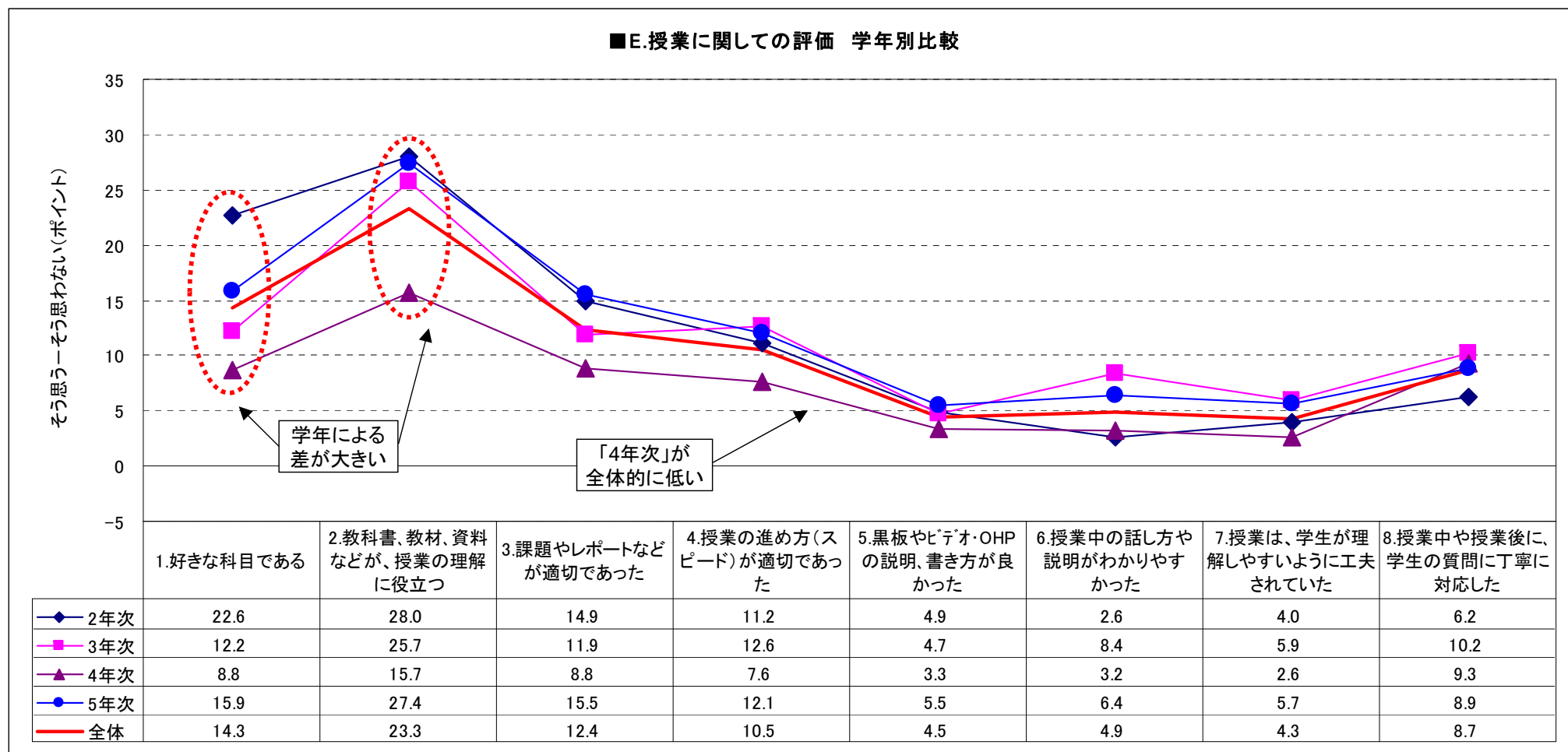
- 「C. 自分の取り組み姿勢」の肯定的な意見を学年別に比較すると、「2年次」が81.9%と最も多く、「3年次」が77.6%、「4年次」が76.3%、「5年次」が73.4%と続いており、高学年ほど積極性が低くなる傾向が見られた。ただし、「積極的だった」だけを見ると学年との相関関係はなく、「3年次」の低さが目立っていた。
- 「D. 満足度」で肯定的な意見の合計を比較すると「2年次」が85.9%であり、非常に高い満足度となっていた。次いで、「3年次」と「5年次」が83.6%で並んでおり、「4年次」が75.3%となっていた。ここでも「満足」だけを見ると「3年次」が19.1%と低い点が目立っていた。また、「4年次」は「満足」が25.8%と少なくないものの、「不満」が10.3%と多い点も目立っており、評価が両極端であった。





### 3) 学年別 授業に関するの評価比較全体比較

- 授業に関するの評価を学年別に見たところ、「1.好きな科目である」と「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」は学年による差が大きく、特に「4年次」の低さが目立っていた。
- 上記以外の項目は学年による差がそれほど大きくなく、評価は似たものとなっていた。ただし、上記の2項目も含めて、全体的に「4年次」の評価が低めであり、やや厳しいものとなっていた。

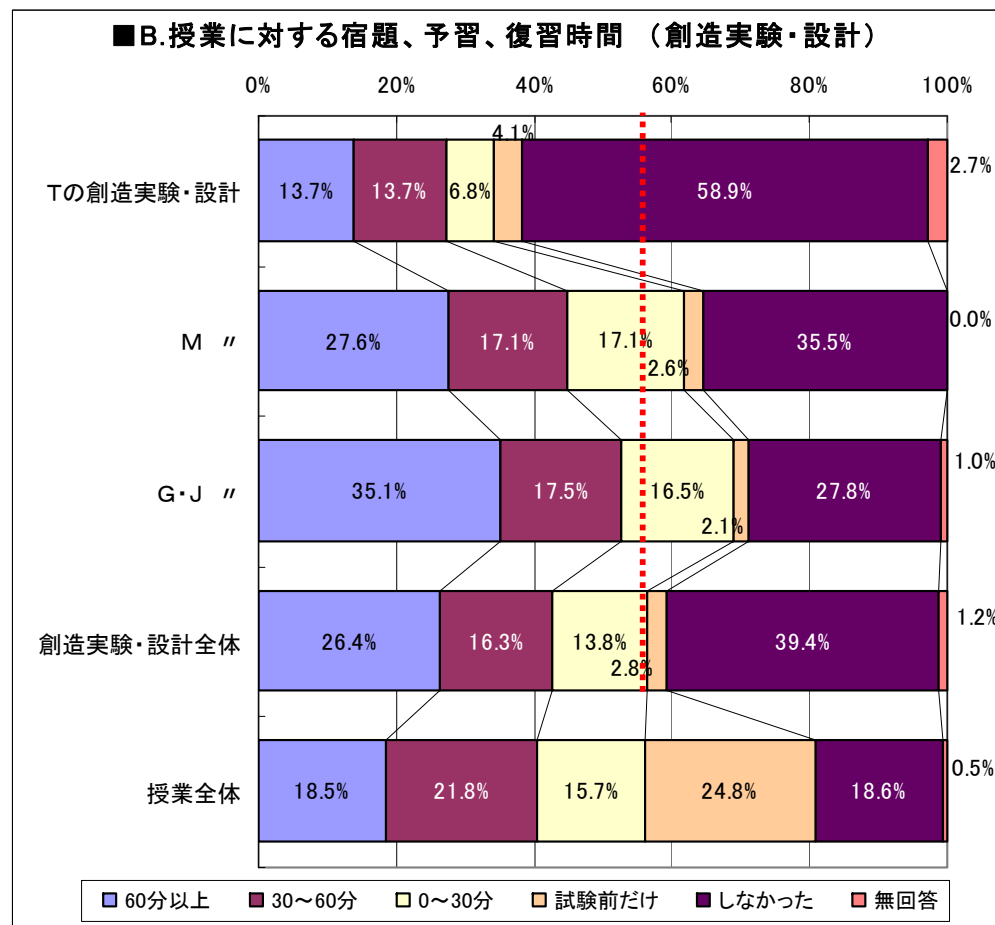
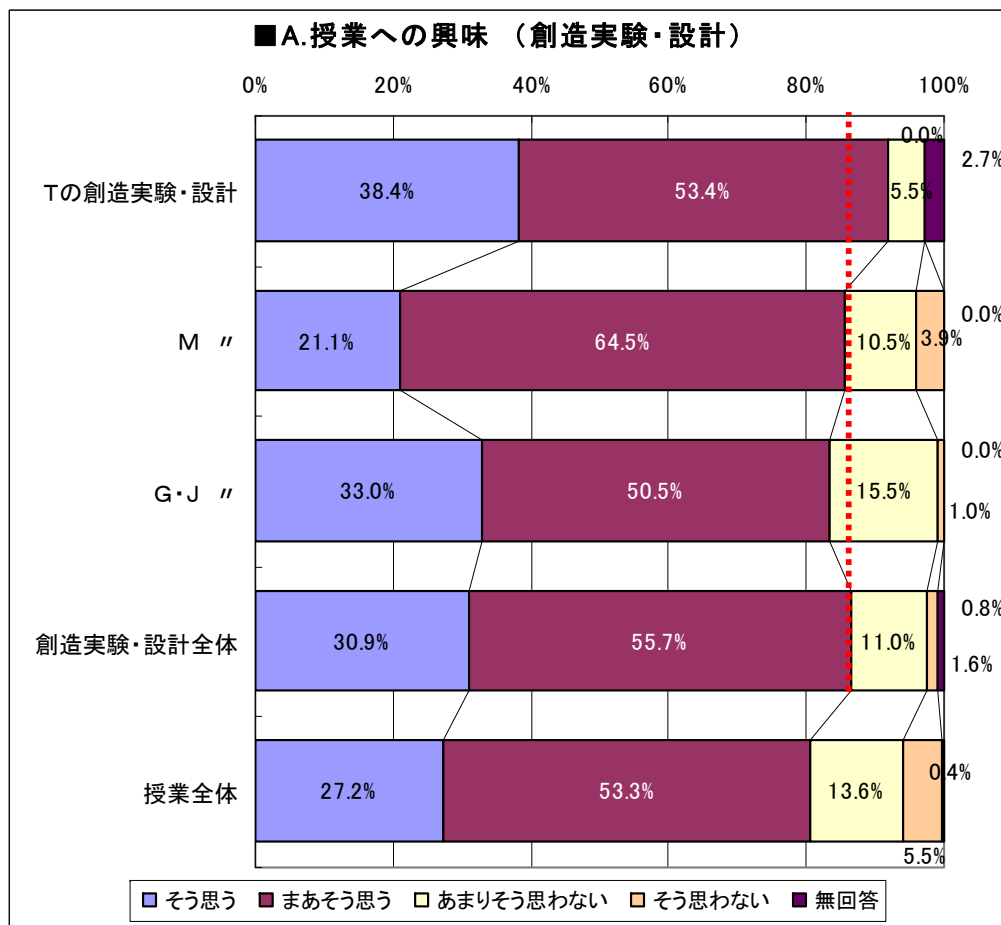




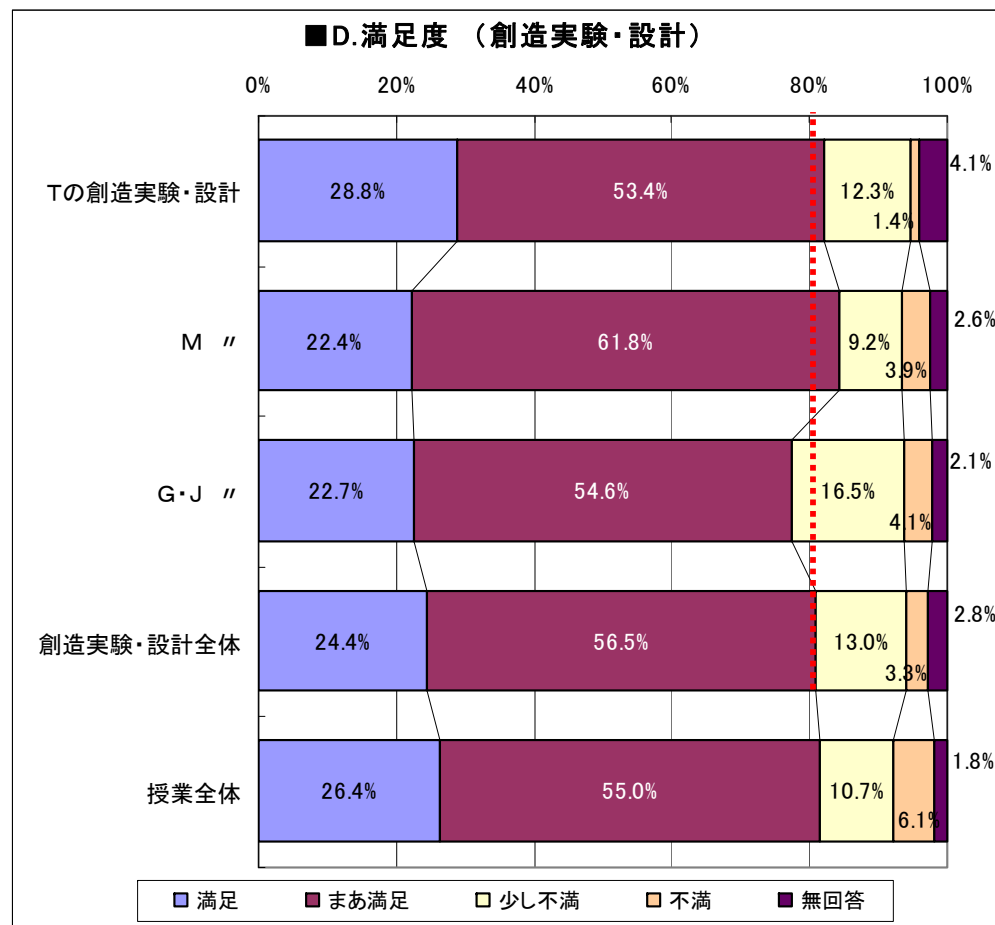
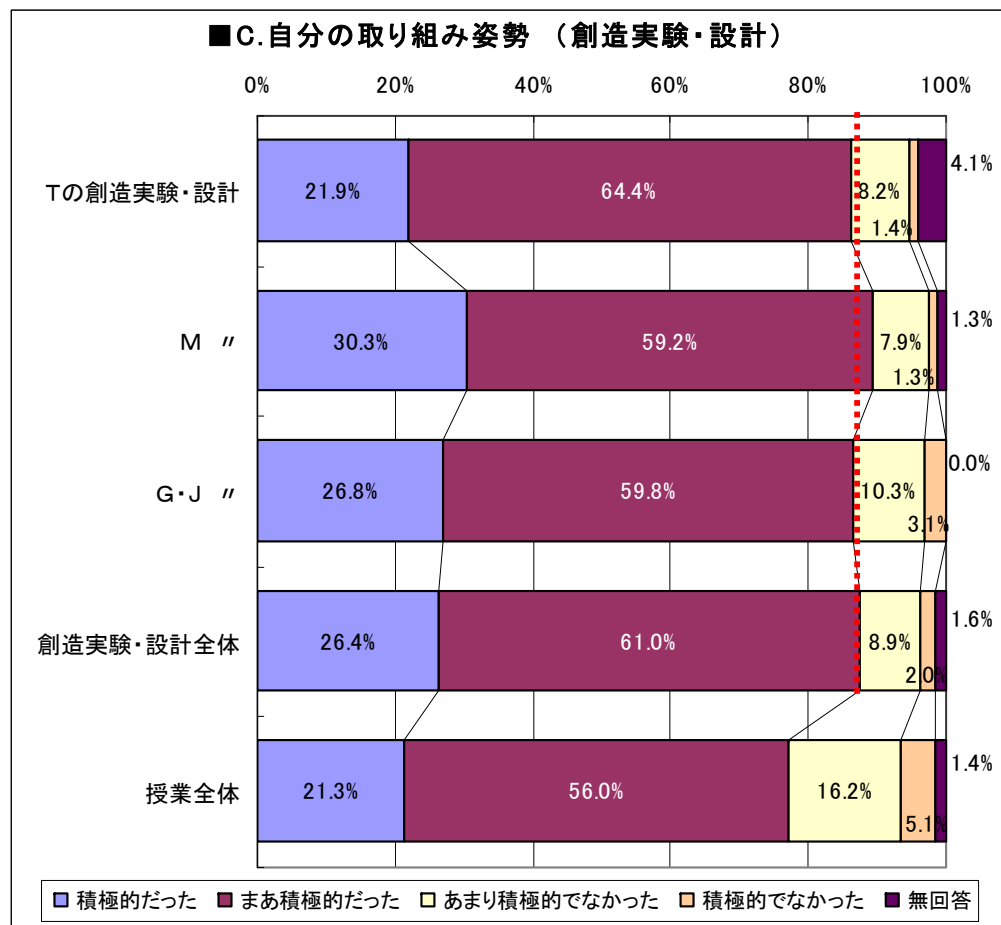
# <5> 創造実験・設計に関して

## 1) 創造実験・設計の授業への取り組み姿勢比較

- 「創造実験」と「創造設計」の科目について、部会毎に比較を行った。
- 「A. 授業への興味」で肯定的な意見の合計を見ると、「創造実験・設計全体」では86.6%が肯定的な意見であり、「授業全体」の80.5%と比べると6.1ポイントの差で、「創造実験・設計」に対する興味が強かった。また、部会別に見ると、「T」が91.8%であり、特に「そう思う」が38.4%と多さが目立っていた。次いで、「M」が85.6%、「G・J」が83.5%と続いていた。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間」に関して「60分以上」「30～60分」「0～30分」の合計で比較したところ、「創造実験・設計全体」は56.5%であり、「授業全体」の56.0%とほぼ同じであった。ただし、「創造実験・設計全体」では「しなかった」が39.4%と非常に多いという特徴が見られた。また、部会別では「T」が特徴的であり、「しなかった」が58.9%と非常に多かった。そして、「M」と「G・J」はよく似た傾向になっていた。

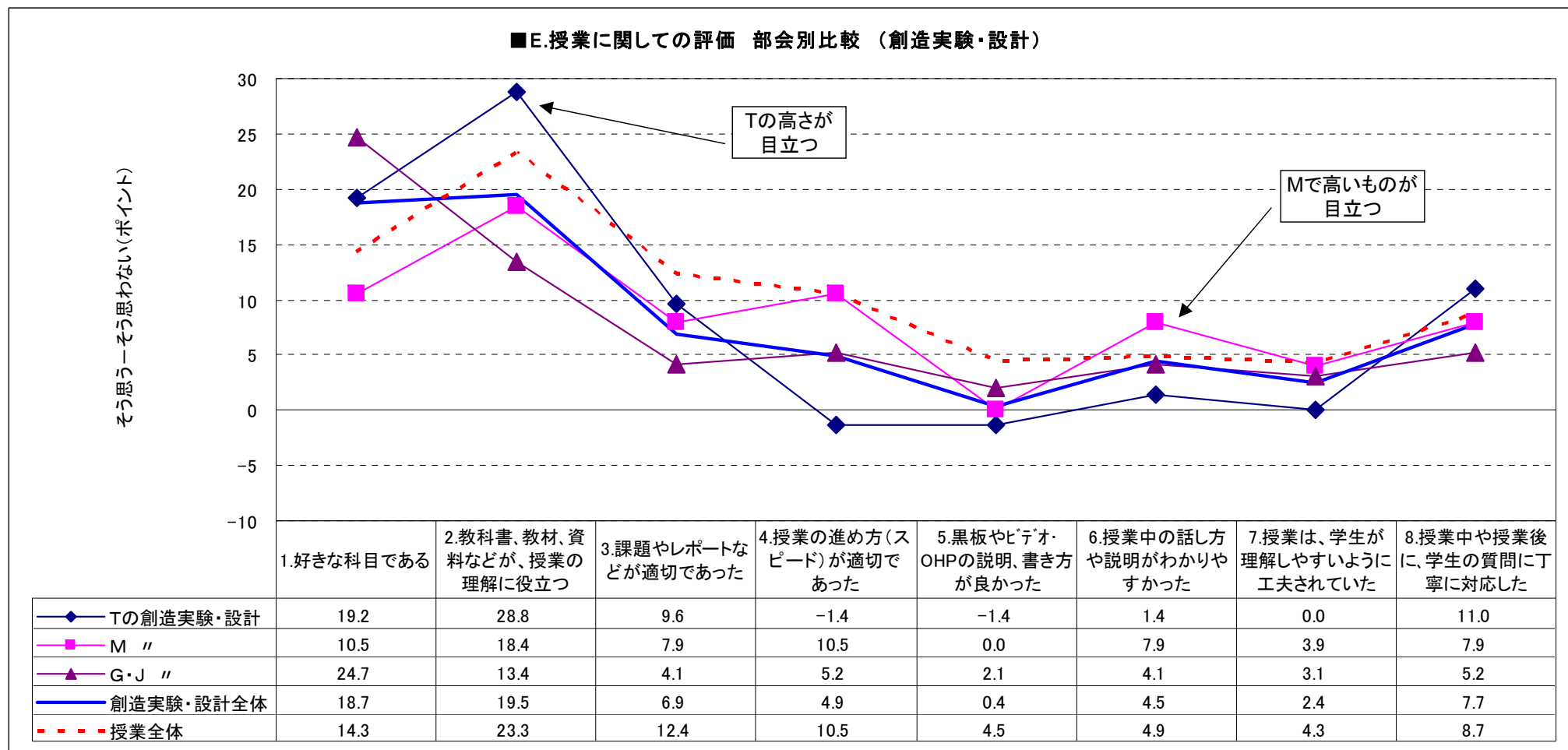


- 「C. 自分の取り組み姿勢」の「創造実験・設計全体」では肯定的な意見が87.4%であり、「授業全体」の77.3%を10.1ポイント上回っており、学生が積極的に取り組んでいる様子が見えてきた。部会別には「M」が89.5%で最も高く、「G・J」が86.6%、「T」が86.3%で続いており、いずれの部会でもほとんど差はなく、積極性が高かった。
- 「D. 満足度」の「創造実験・設計全体」では肯定的な意見が81.4%であり、「授業全体」の81.4%とほぼ同じ満足度となっていた。そして、部会別には「M」が84.2%、「T」が82.2%、「G・J」が77.3%であった。最も高い「M」と最も低い「G・J」の差は6.9ポイントであったが、いずれの部会でも「創造実験・設計」に対する満足度は高いと言える。



### 3) 創造実験・設計の授業に関する評価比較

- 授業に関する評価で「創造実験・設計全体」を見ると、「1.好きな科目である」は「授業全体」を上回って人気はあるようであったが、その他の項目は「授業全体」を下回っていた。
- 部会別に見ると、「T」は「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」の高さは目立っていたが、その他の項目はやや低めで、「4.授業の進め方(スピード)が適切であった」と「5.黒板やビデオ・OHPの説明、書き方が良かった」はマイナススコアとなっていた。一方、「M」は「1.好きな科目である」は低かったものの、それ以外はやや高めのものが多かった。そして、「G・J」は「1.好きな科目である」は高かったが、それ以外では「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」と「3.課題やレポートなどが適切であった」の低さが目立っていた。



# <6> 部会別、評価の高かった科目比較

## 1) 一般

- 「興味」「積極性」「満足度」を加重平均で点数化し、H29とH30のスコアを部会別に比較した。
- H30の「一般」では、「保健体育Ⅳ」の評価が3指標共に最も高く、「文化・芸術・思想ⅢB」が続いていた。次に「文化・芸術・思想ⅢA」が「興味」と「積極性」の3位に入って「満足度」で4位、「社会科学Ⅰ」が「興味」と「積極性」の4位に入って「満足度」では3位と、この4つの科目が3指標のトップ4を占めていた。
- H29の上位を見ると、3指標共に「文化・芸術・思想ⅢB」がトップで、「文化・芸術・思想ⅢA」もH30同様高かった。H30に評価が高い「社会科学Ⅰ」は前回が入っていないが、「社会科学ⅢB」と「社会科学ⅢA」は前回も評価が高く、「保健体育」関連科目の評価も高かった。そしてH30との大きな違いは「国語Ⅰ」の評価で、H29には3指標共にトップ3に入っていた。

■H29で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	文化・芸術・思想ⅢB	8.46	文化・芸術・思想ⅢB	8.46	文化・芸術・思想ⅢB	9.17
2	文化・芸術・思想ⅢA	8.33	文化・芸術・思想ⅢA	7.08	国語Ⅰ	7.91
3	国語Ⅰ	7.60	国語Ⅰ	6.55	社会科学ⅢB	7.39
4	文化・芸術・思想ⅡA	6.82	保健体育Ⅲ	5.18	文化・芸術・思想ⅢA	7.27
5	社会科学ⅢB	6.30	日本語スキルズ	4.88	文化・芸術・思想ⅡA	6.59
6	社会科学ⅢA	6.04	保健体育Ⅱ	4.79	歴史Ⅱ	6.18
7	保健体育Ⅲ	5.91	保健体育Ⅰ	4.62	日本語スキルズ	5.96
8	日本語スキルズ	5.89	歴史Ⅱ	4.59	保健体育Ⅰ	5.95
9	保健体育Ⅰ	5.53	キャリアデザイン	4.55	文化・芸術・思想ⅡB	5.91
10	国語Ⅲ	5.48	文化・芸術・思想ⅡA	4.55	国語Ⅱ	5.72

■H30で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	保健体育Ⅳ	9.64	保健体育Ⅳ	8.21	保健体育Ⅳ	8.57
2	文化・芸術・思想ⅢB	8.33	文化・芸術・思想ⅢB	7.71	文化・芸術・思想ⅢB	8.33
3	文化・芸術・思想ⅢA	7.37	文化・芸術・思想ⅢA	7.37	社会科学Ⅰ	7.69
4	社会科学Ⅰ	7.31	社会科学Ⅰ	6.15	文化・芸術・思想ⅢA	7.63
5	社会科学ⅢB	7.00	保健体育Ⅱ	5.90	社会科学ⅢB	7.33
6	保健体育Ⅱ	6.28	国語Ⅱ	5.65	社会科学ⅢA	6.36
7	国語Ⅲ	6.16	国語Ⅲ	4.79	保健体育Ⅱ	6.03
8	デザイン概論	6.05	デザイン概論	4.44	国語Ⅲ	5.99
9	国語Ⅱ	5.84	保健体育Ⅲ	4.12	デザイン概論	5.79
10	社会科学ⅢA	5.00	社会科学ⅢA	4.09	国語Ⅱ	5.58

## 2) 語学

- H30では3つの指標共に「海外英語研修」の評価が最も高かった。そして、「英語スキルズⅡ」、「上級英語Ⅱ」「日本文化」のいずれかが続いており、この4つの科目がトップ4を占めていた。それに続いてきたのは「総合英語Ⅲ」と「総合英語Ⅳ」であり、3つの指標共に5位と6位になっていた。
- H29の「興味」と「積極性」の1位は、H30にも上位の「英語スキルズ」関連の科目だが、ここでは「英語スキルズⅠ」であった。その他では「総合英語Ⅰ(R)」「総合英語Ⅳ」が上位にあり、H30に高評価の「日本文化」「英語スキルズⅡ」も5位までに入っていた。

■H29で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	英語スキルズⅠ	6.88	英語スキルズⅠ	6.18	総合英語Ⅳ	7.05
2	総合英語Ⅰ(R)	6.88	総合英語Ⅳ	6.14	総合英語Ⅰ(R)	6.82
3	総合英語Ⅳ	6.82	英語スキルズⅡ	5.40	英語スキルズⅠ	6.53
4	日本文化	6.01	総合英語Ⅰ(R)	5.39	日本文化	6.38
5	英語スキルズⅡ	5.83	日本文化	5.10	英語スキルズⅡ	6.10
6	総合英語Ⅲ	5.61	上級英語Ⅱ	5.00	総合英語Ⅲ	5.89
7	上級英語Ⅰ	5.59	総合英語Ⅲ	4.94	上級英語Ⅰ	5.78
8	上級英語Ⅱ	5.31	上級英語Ⅰ	4.71	英語表現技法	5.42
9	英語表現技法	4.79	英語表現技法	4.38	上級英語Ⅱ	3.94
10	総合英語Ⅰ(G)	3.75	総合英語Ⅰ(G)	3.80	総合英語Ⅰ(G)	3.42

■H30で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	海外英語研修	9.67	海外英語研修	8.93	海外英語研修	9.23
2	上級英語Ⅱ	6.55	英語スキルズⅡ	5.95	英語スキルズⅡ	6.78
3	日本文化	6.53	上級英語Ⅱ	5.69	日本文化	6.55
4	英語スキルズⅡ	6.38	日本文化	5.53	上級英語Ⅱ	6.38
5	総合英語Ⅲ	5.79	総合英語Ⅲ	4.93	総合英語Ⅲ	5.71
6	総合英語Ⅳ	4.68	総合英語Ⅳ	4.41	総合英語Ⅳ	4.89
7	英語スキルズⅢ	4.64	英語スキルズⅢ	4.00	総合英語Ⅱ	4.67
8	上級英語Ⅰ	4.56	総合英語Ⅱ	3.95	上級英語Ⅰ	4.38
9	総合英語Ⅱ	4.21	上級英語Ⅰ	3.72	英語スキルズⅢ	4.06
10	英語資格技術	0.50	英語資格技術	3.50	英語資格技術	-0.17

### 3) 数理

- H30の「数理」では、「応用数学Ⅰ」「応用数学Ⅱ」「数理統計B」が上位の3位までを占めていた。次いで、「数理統計A」「物理化学Ⅱ」「線形代数Ⅰ」などでほとんど上位7位までを占めていた。
- H29には「興味」では「数理統計A」、「積極性」では「応用数学Ⅱ」、「満足度」では「微分積分Ⅰ」がトップとなっていた。また、「微分積分Ⅰ」と共に「微分積分Ⅱ」も上位に入っており、この点はH30とは異なっていた。また、「応用数学Ⅱ」はH29にも比較的上位にあったが、H30に上位の「応用数学Ⅰ」「物理化学Ⅱ」「線形代数Ⅰ」はH29には評価が低かった。

■H29で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	数理統計A	6.00	応用数学Ⅱ	6.15	微分積分Ⅰ	6.86
2	微分積分Ⅱ	5.98	微分積分Ⅱ	5.91	基礎数学Ⅱ	6.81
3	基礎数学Ⅱ	5.97	基礎数学Ⅱ	5.91	数理統計A	6.75
4	微分積分Ⅰ	5.69	数理統計A	5.50	応用数学Ⅱ	6.64
5	応用数学Ⅱ	5.66	微分積分Ⅰ	5.15	数理統計B	6.25
6	物理化学Ⅰ	5.53	応用数学Ⅰ	4.40	物理化学Ⅰ	5.81
7	応用数学Ⅰ	5.26	物理化学Ⅰ	4.38	応用数学Ⅰ	5.69
8	数理統計B	5.00	物理化学Ⅲ	3.59	微分積分Ⅱ	5.44
9	基礎数学Ⅰ	4.37	数理統計B	3.50	線形代数Ⅰ	4.85
10	物理化学Ⅲ	4.00	応用物理Ⅱ	3.00	物理化学Ⅲ	4.46
10	—	—	基礎数学Ⅰ	3.00	—	—

■H30で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	数理統計B	5.59	応用数学Ⅰ	4.41	応用数学Ⅱ	6.45
2	応用数学Ⅱ	5.45	応用数学Ⅱ	4.27	応用数学Ⅰ	6.02
3	応用数学Ⅰ	5.00	数理統計B	4.06	数理統計B	5.94
4	数理統計A	5.00	線形代数Ⅰ	3.99	物理化学Ⅲ	5.34
5	物理化学Ⅱ	4.80	物理化学Ⅱ	3.96	線形代数Ⅰ	5.13
6	線形代数Ⅰ	4.60	線形代数Ⅱ	3.41	数理統計A	5.00
7	線形代数Ⅱ	3.48	数理統計A	3.21	物理化学Ⅱ	4.60
8	微分積分Ⅱ	2.63	微分積分Ⅱ	2.95	線形代数Ⅱ	4.04
9	物理化学Ⅲ	2.57	微分積分Ⅰ	1.78	微分積分Ⅱ	3.08
10	微分積分Ⅰ	1.97	物理化学Ⅲ	0.68	微分積分Ⅰ	2.76

## 4)T

- H30の「T」の科目では、「積極性」と「満足度」で「インターンシップ I」、「興味」では「電気法規と施設管理」がトップであり、この2科目が3指標でトップ2を占めていた。3位以下を見ると、「創造実験 II」「発変電工学」「パワーエレクトロニクス」が比較的高めであったが、「積極性」で3位の「電気システム設計 II」は他の指標ではそれほど高くなかった。
- H29には3つの指標ともに「コンピュータ I」がトップであり、「情報工学 I」「電気機器」「情報伝送工学」「創造実験 I」などが続いていたが、H30と共通する科目は見られなかった。

■H29で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	コンピュータ I	8.70	コンピュータ I	7.61	コンピュータ I	8.70
2	情報工学 I	7.95	電気機器	7.61	情報工学 I	7.95
3	情報伝送工学	7.73	情報工学 I	7.05	情報伝送工学	7.73
4	創造実験 I	7.71	卒業研究	7.00	電気機器	7.61
5	電気機器	7.39	創造実験 I	6.88	データ通信ネットワーク	7.17
6	卒業研究	7.25	インターンシップ	6.72	デザインメソッド I	7.08
7	データ通信ネットワーク	7.17	電気システム設計 I	6.67	創造実験 I	7.08
8	電気システム設計 I	7.04	データ通信ネットワーク	6.52	電気基礎	7.08
9	インターンシップ	6.90	コンピュータ III	6.48	インターンシップ	7.07
10	創造実験 II	6.76	メカトロニクス	5.75	創造実験 II	6.47

■H30で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	電気法規と施設管理	8.53	インターンシップ I	8.54	インターンシップ I	8.96
2	インターンシップ I	8.13	電気法規と施設管理	7.35	電気法規と施設管理	8.75
3	創造実験 II	7.80	電気システム設計 II	6.15	発変電工学	8.65
4	パワーエレクトロニクス	7.60	デザインメソッド III	5.95	パワーエレクトロニクス	7.60
5	発変電工学	7.12	コンピュータ II	5.77	デザインメソッド II	7.40
6	卒業研究	6.94	卒業研究	5.65	創造実験 II	7.29
7	コンピュータ II	6.92	パワーエレクトロニクス	5.60	電気システム設計 II	6.92
8	デザインメソッド II	6.92	デザインメソッド II	5.40	電気機器	6.79
9	システム工学	6.67	創造実験 II	5.40	コンピュータ IV	6.67
10	デザインメソッド III	6.67	発変電工学	5.38	デザインメソッド III	6.67



## 5)M

- H30の「M」では、3指標共に「機械工学演習Ⅲ」の評価が最も高かった。そして、2位は「卒業研究」「インターンシップⅠ」「機械設計演習Ⅱ」とばらばらであり、「興味」と「積極性」の3位には「機械製図Ⅲ」が入っていた。
- H29には「興味」と「積極性」の1位は「インターンシップ」であり、「満足度」の1位は「デザインメソッドⅠ」であった。この「デザインメソッドⅠ」は「積極性」では2位、「興味」では4位に入っていた。それ以降では「創造設計Ⅳ」が「興味」の2位と「積極性」の3位に入っており、「創造設計Ⅰ」「材料力学Ⅱ」「エンジニアリングマネジメント」などが続いていた。いずれもH30と一致するものは見られなかった。

■H29で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	インターンシップ	9.13	インターンシップ	8.64	デザインメソッドⅠ	7.50
2	創造設計Ⅳ	8.08	デザインメソッドⅠ	7.29	材料力学Ⅱ	7.31
3	創造設計Ⅰ	7.71	創造設計Ⅳ	7.12	エンジニアリングマネジメント	7.25
4	デザインメソッドⅠ	7.29	材料力学Ⅰ	6.72	機械工学演習Ⅰ	7.14
5	エンジニアリングマネジメント	7.25	機械製図Ⅰ	6.60	工業力学Ⅱ	7.11
6	機械工学概論Ⅰ	6.85	材料力学Ⅱ	6.54	機械材料	6.94
7	機械工学演習Ⅰ	6.67	創造設計Ⅰ	6.52	創造設計Ⅳ	6.92
8	機械材料	6.61	エンジニアリングマネジメント	6.50	インターンシップ	6.82
9	機械製図Ⅰ	6.60	機械工学演習Ⅰ	6.43	機械製図Ⅰ	6.60
10	材料力学Ⅱ	6.54	機械材料	5.97	機械工学実験Ⅰ	6.40

■H30で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	機械工学演習Ⅲ	8.93	機械工学演習Ⅲ	8.85	機械工学演習Ⅲ	8.93
2	卒業研究	8.80	インターンシップⅠ	8.15	機械設計演習Ⅱ	8.04
3	機械製図Ⅲ	7.40	機械製図Ⅲ	7.50	工業力学Ⅱ	7.92
4	機械設計演習Ⅱ	7.29	卒業研究	7.40	デザインメソッドⅡ	7.29
5	機械材料	7.06	創造設計Ⅱ	6.09	機械製図Ⅲ	7.20
6	インターンシップⅠ	6.85	メカトロニクスⅠ	5.47	卒業研究	7.20
7	デザインメソッドⅡ	6.80	機械製図Ⅱ	5.45	機械材料	6.76
8	機械製図演習	6.58	材料力学Ⅱ	5.44	創造設計Ⅱ	6.74
9	創造設計Ⅱ	6.09	機械設計演習Ⅱ	5.42	機械工学実験Ⅱ	6.54
10	機械製図Ⅱ	5.87	創造設計Ⅳ	5.29	機械設計Ⅰ	6.41



## 6) G・J

- H30の「G・J」では、「英語総合技能B」が「興味」と「積極性」の1位、「満足度」の2位に入っており、高い評価となっていた。そして、「満足度」の1位は「デザインメソッドⅡ」で、「興味」と「積極性」では4位となっていた。それ以外では、「プログラミング演習Ⅰ」「創造設計Ⅱ」「創造設計Ⅲ」「英語討議技法」「英語作文技法」などがトップ3に入っていた。
- H29には「興味」で「カレントイングリッシュ」、「積極性」で「インターンシップ」、「満足度」で「デザインメソッドⅠ」がトップとなっていた。2位以下を見ると、「興味」と「積極性」で「デザインメソッドⅠ」が2位となっており、H30の「満足度」が1位であった「デザインメソッドⅡ」は「満足度」で2位、「積極性」で3位と高評価であった。その他では「創造設計Ⅰ」「英語総合技能Ⅱ」がトップ3に入っていた。

■H29で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	カレントイングリッシュ	7.35	インターンシップ	8.18	デザインメソッドⅠ	7.50
2	デザインメソッドⅠ	7.33	デザインメソッドⅠ	7.67	デザインメソッドⅡ	7.50
3	創造設計Ⅰ	7.04	デザインメソッドⅡ	6.14	英語総合技能Ⅱ	7.33
4	インターンシップ	6.82	プログラミング基礎	5.89	カレントイングリッシュ	6.76
5	デザインメソッドⅡ	6.82	英語総合技能Ⅱ	5.67	創造設計Ⅰ	6.30
6	英語総合技能Ⅱ	6.67	創造設計Ⅰ	5.56	情報システムⅠ	5.95
7	プログラミング基礎	5.71	コンピュータリテラシーⅠ	5.50	プログラミング基礎	5.89
8	コンピュータリテラシーⅠ	5.67	カレントイングリッシュ	5.29	インターンシップ	5.68
9	デザインメソッドⅢ	5.56	デザインメソッドⅢ	5.00	デザインメソッドⅢ	5.37
10	情報ビジネス英語Ⅰ	5.00	情報処理Ⅲ	5.00	ネットワークシステム	5.29
10	卒業研究	5.00	—	—	—	—

■H30で評価の高かった上位10科目

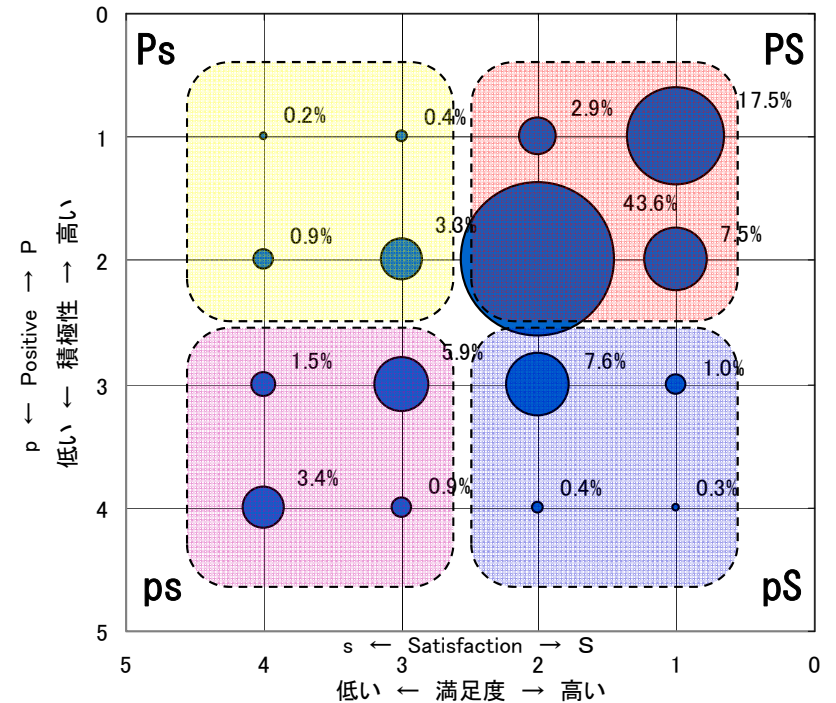
	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	英語総合技能B	7.63	英語総合技能B	7.37	デザインメソッドⅡ	8.28
2	プログラミング演習Ⅰ	6.96	創造設計Ⅱ	6.43	英語総合技能B	7.89
3	創造設計Ⅲ	6.41	英語討議技法	6.36	英語作文技法	7.00
4	デザインメソッドⅡ	6.38	デザインメソッドⅡ	6.21	デザインメソッドⅢ	6.76
5	創造設計Ⅱ	6.25	デザインメソッドⅢ	6.18	アルゴリズムとデータ構造	6.58
6	デザインメソッドⅢ	6.18	創造設計Ⅲ	5.94	計算機システムⅢ	6.50
7	アルゴリズムとデータ構造	6.05	プログラミング演習Ⅰ	5.71	英語討議技法	6.36
8	計算機システムⅢ	6.00	コンピュータリテラシーⅡ	5.60	プログラミング演習Ⅰ	6.25
9	情報ビジネス英語Ⅰ	5.91	インターンシップⅠ	5.42	創造設計Ⅲ	5.94
10	インターンシップⅠ	5.69	ネットワークシステム	5.25	情報ビジネス英語Ⅰ	5.76
10	マーケティングⅠ	5.69	—	—	—	—

# <7>達成度に関して

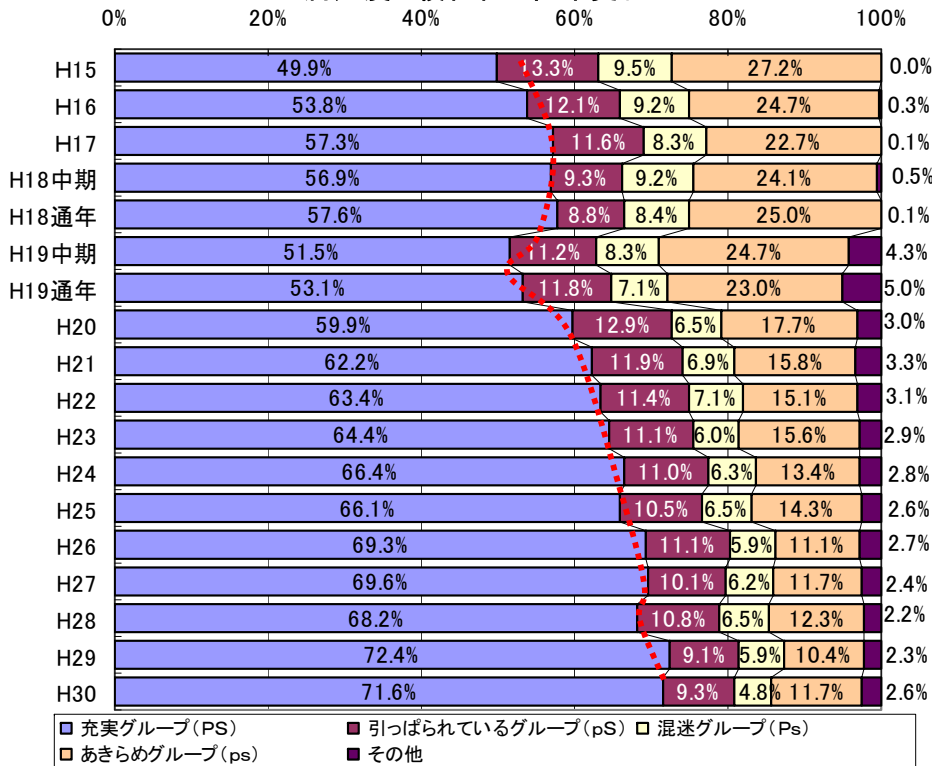
## 1) 全体傾向

- 「積極性」と「満足度」の組み合わせによるPS指標では、積極性、満足度共に肯定的である「PS・充実グループ」が71.6%と最も多かった。
- 「PS・充実グループ」の内訳では、「まあ積極的」かつ「まあ満足」という層が43.6%で最も多く、「積極的」かつ「満足」は17.5%にとどまった。
- 上記以外を見ると、「pS・引っぱられているグループ」が9.3%、「Ps・混迷グループ」が4.8%、「ps・あきらめグループ」が11.7%という割合であった。
- 経年変化では、「PS・充実グループ」は前回より0.8ポイント減少した。ただし、過去最高であった前回に次いで、過去2番目の多さであった。
- 一方、「ps・あきらめグループ」は前回より1.3ポイント増加していた。そして、「Ps・混迷グループ」は過去最低になっていた。

■ 満足度と積極性の関係



■ 満足度と積極性 経年変化

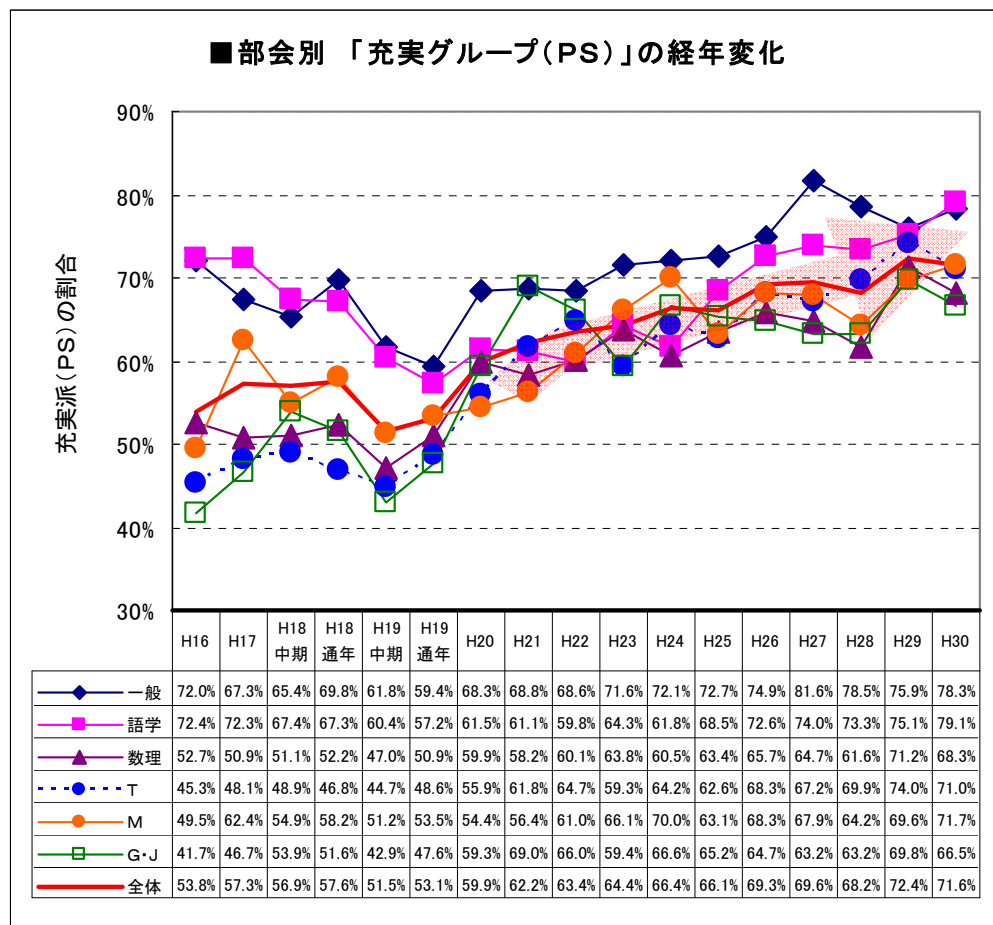
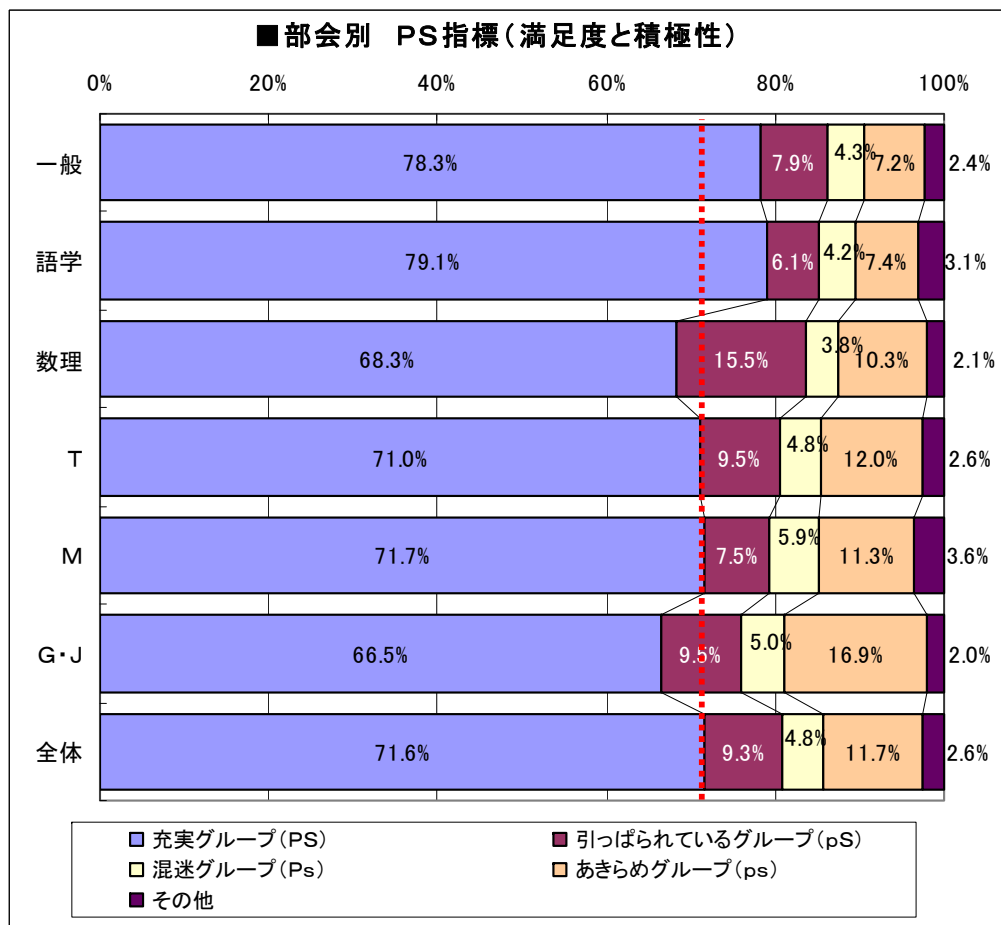


■ PS指標の内訳

記号	指標	想像される特性	領域の合計
PS (充実グループ)	● 積極性も満足度も高い	● 授業に積極的に取り組み、結果として満足度も高い。 ● 最も良い状態にあり、達成度も高いと想像できる。	71.6%
pS (引っぱられているグループ)	● 積極性は低い ● 満足度は高い	● それほど頑張らなかつたが、満足している。周囲、教員に引っぱられてうまくいっている。 ● 求めるレベルが低いことも考えられるが、授業が期待以上というケースも考えられる。	9.3%
Ps (混迷グループ)	● 積極性は高い ● 満足度は低い	● 目標が高すぎたことも考えられるが、授業内容が期待はずれ。 ● 最も注意すべき状態であり、この層の満足度を上げることが最優先。	4.8%
ps (あきらめグループ)	● 積極性も満足度も低い	● 授業に期待がなく積極性が低く満足度も低い。 ● まず、授業に取り組む態度を見直させることが必要。	11.7%

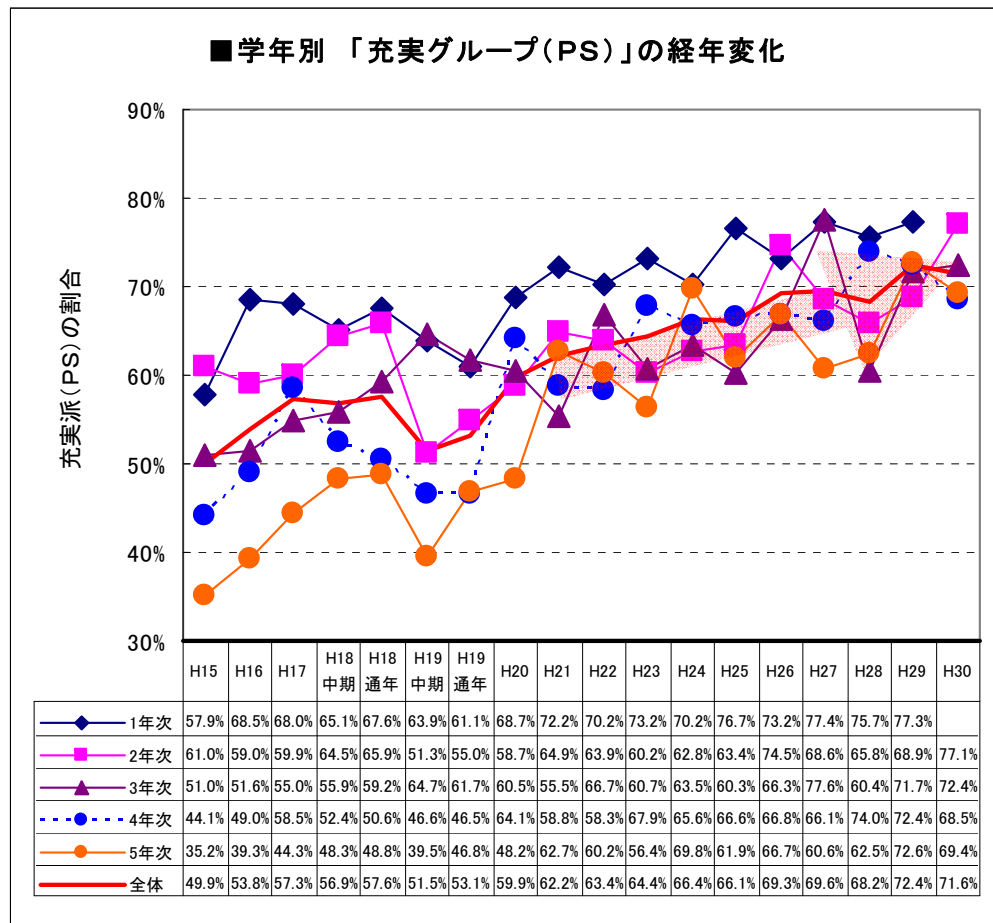
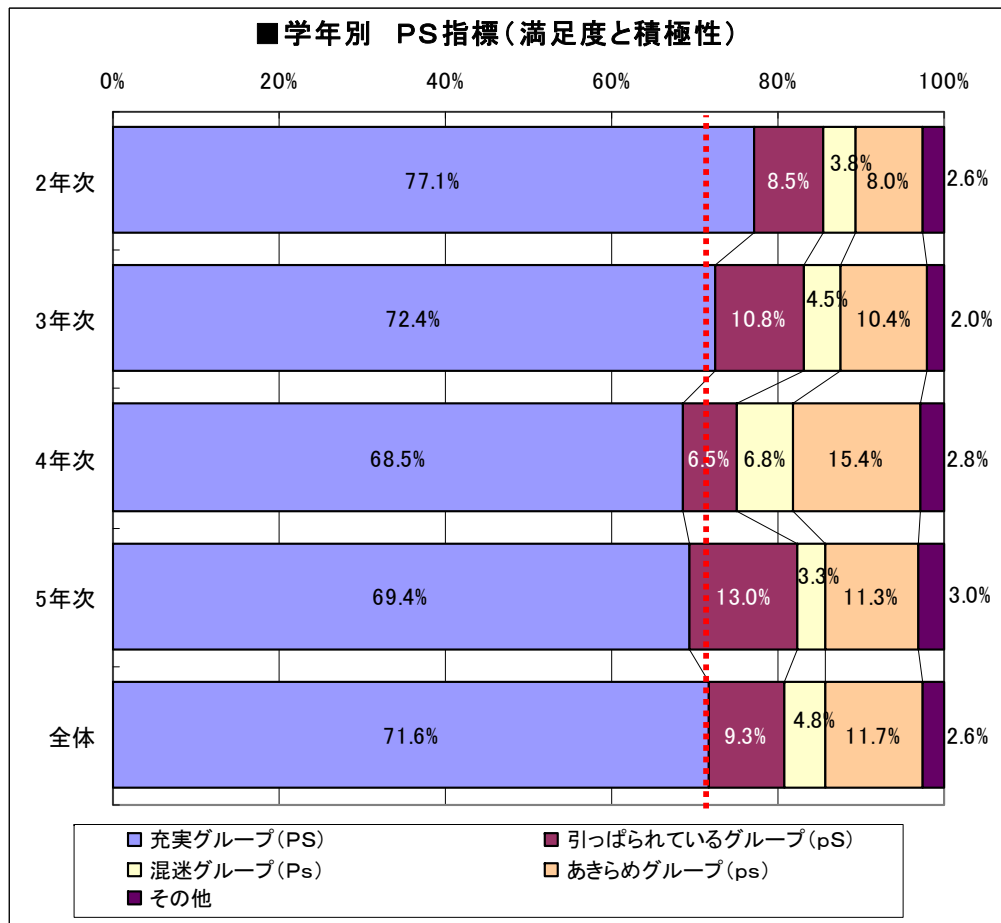
## 2)部会別 PS指標比較

- 「PS・充実グループ」の部会別の割合を見ると、「語学」が79.1%で最も多かった。次いで、「一般」が78.3%、「M」が71.7%、「T」が71.0%、「数理」が68.3%と続いており、最も少なかったのは「G・J」の66.5%で、「語学」との差は12.6ポイントであった。
- 一方、「ps・あきらめグループ」は「G・J」が最も多く16.9%であり、最も少ないのは「一般」の7.2%であった。
- 「PS・充実グループ」の経年変化を見ると、例外はあるものの「語学」ではH24あたりから増加傾向が続いており、今回は過去最高となった。また、「一般」はH27からの減少が止まって前回は上回り、「M」もH28から増加が続いていた。一方、これらの3部会以外はずべて前回は下回る結果となっていた。



### 3) 学年別 PS指標比較

- 「PS・充実グループ」の割合を学年別に比較したところ、「2年次」が77.1%と最も多かった。次いで、「3年次」が72.4%、「5年次」が69.4%と続き、「4年次」が最低の68.5%であった。「4年次」と「5年次」の差は非常に小さいことから、「PS・充実グループ」は高学年ほど少なくなるとも言える。
- 一方、「ps・あきらめグループ」は「4年次」が15.4%と最も多く、最も少ない「2年次」の8.0%とは7.4ポイントの差となっていた。そして、「5年次」で「ps・引っぱられているグループ」が多い点も特徴的であった。
- 「PS・充実グループ」の経年変化を見ると、「2年次」と「3年次」が前回を上回り、「2年次」は過去最高、「3年次」は過去2番目の高さとなった。一方、「4年次」と「5年次」は前回より低下していた。



# <8> 調査のまとめ

## 1) 全体傾向、部会別比較、学年別比較

	分野ごとの意見	まとめ
全体傾向	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 学生の80.5%が「興味を持って授業を受けた」と答えていたが、過去最高であった前回は2.3ポイント下回った。</li> <li>□ 自宅での学習時間を見ると、過去最高の勉強時間であった。</li> <li>□ 「授業に積極的に取り組んだ」という回答は77.3%であり、前回はわずかに下回ったが、非常に積極的な様子がうかがえた。</li> <li>□ 「授業に満足」しているという回答は81.4%であり、過去最高の前回はわずかに下回ったものの満足度の高さは継続していた。</li> <li>□ 授業評価では「教科書、教材、資料などが役立つ」の評価が高く、「好きな科目である」は賛否意見が共に多いという傾向が見られた。</li> <li>□ 「好きな科目である」「教科書、教材、資料など」をはじめとして、授業評価はほとんどの項目で前回は下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 授業の満足度は81.4%であり、過去最高の前回はわずかに下回った。</li> <li>▶ 「興味」「積極性」も前回は下回ったものの、高い状態を維持していた。</li> <li>▶ 「自宅での学習時間」は過去最高であった。</li> <li>▶ 「教科書、教材、資料など」の評価は前回は下回ったものの継続的に高く、「好きな科目である」は賛否意見が共に多かった。</li> </ul>
部会別傾向	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「一般」「語学」の科目は「興味」「積極性」「満足度」共に高く、全体的に低かったのは「G・J」であった。</li> <li>□ 「宿題、予習、復習時間」は「数理」の科目が最も長かったが、それ以外の部会の差はそれほど大きくなかった。</li> <li>□ 「一般」と「語学」に対する「興味」と「積極性」は前回は上回った。そして、「語学」「T」「M」に対する「満足度」は過去最高となった。</li> <li>□ 「好きな科目である」では「一般」と「語学」、「教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」では「数理」と「T」の評価が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 「興味」「積極性」「満足度」共に「一般」「語学」が高く、「G・J」が低い。</li> <li>▶ 「学習時間」は「数理」が最も長く、他の部会の差は小さい。</li> <li>▶ 「語学」「T」「M」の「満足度」が過去最高となった。</li> </ul>
学年別傾向	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「興味」「積極性」「満足度」は「2年次」で肯定的な意見が多く、「積極性」は高学年ほど低下する傾向が見られた。</li> <li>□ 勉強時間は「4年次」が最も長かったが、「しなかった」だけを見ると高学年ほど少なくなる傾向が見られた。</li> <li>□ 「興味」「積極性」は「2年次」だけが前回は上回り、「満足度」は「2年次」と「5年次」が過去最高となった。</li> <li>□ 授業の内容評価は「4年次」が全体的に低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 「興味」「積極性」「満足度」は「2年次」が高かった。</li> <li>▶ 「積極性」は高学年ほど低下する傾向が見られた。</li> <li>▶ 「学習時間」は「4年次」が最も長く、低学年ほど勉強を全くしないという割合が多い。</li> <li>▶ 「2年次」と「5年次」の「満足度」が過去最高となった。</li> </ul>

---

平成30年度

## ICT授業アンケート調査結果[報告書]

- 発行日 令和元年6月28日
- 発行者 国際高等専門学校
- 調査票設計・分析 有限会社 アイ・ポイント
- 編集 金沢工業大学企画部CS室

---

無断複製厳禁

再生紙を使用しています